

# **GROUP STUDY EXCHANGE REPORT**



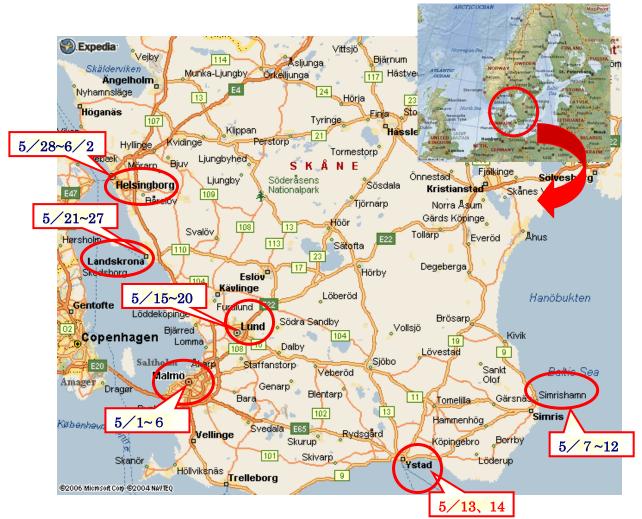
Visit by a team from District 2660, Osaka, Japan To District 2390, Sweden May 1 – June 3, 2006



# 目次

1.	地図、	メン	/バー紹	介		•	•		•								•			•				•		•		3
2.	訪問ク	'ラフ	ř	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	4
3.	日程、	訪問	見地・・	•					•																			5
4.	職業研	修、	ホーム	スプ	ティ	イ	報 <sup>-</sup>	生																				
		>	西野博	孑		•	•		•	•		•			•		•	•			•		•				• 5	24
		>	金谷美	加		•	•			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•				• ;	31
		>	永野里	上実		•	•		•		•	•	•	•	•	•	•	•			•	•	•		•	•	• ;	35
		>	桂川直	辽子		•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	• ,	40
		>	梅辻真	〔希	•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•				• ,	45
5.	終わり	に・		•																							•	52

#### 1. 地図、メンバー紹介



● 西野博子 大阪イブニング RC 所属

大阪教育大学付属平野高等学校副校長退職、大阪家庭裁判所 家事調停員

- 金谷美加 交野 RC 推薦 枚方市立山田保育所勤務、保育士
- 梅辻真希 大阪北 RC 推薦 大阪市役所 健康福祉局高齢者施策部勤務
- 桂川直子 高槻西 RC 推薦 歯科医
- 永野里実 大阪西 RC 推薦 日本コルマー株式会社 研究所勤務

## 2. 訪問ロータリークラブ

Malmo Lorensborg, Malmo Skeppsbron, Hammenhogs, Kivik, Simrishamn Lund Laurentius, Harlosa, Landskrona Glumsluv, Landskrona, Helsingbog Berga Helsingborg Karnan, Hoganas, Hoganas-Kullen



各クラブプレジセントのサイン

5月1日(月) 西野

7時過ぎ、GSEメンバー5人が関西国際空港に集合。昨日加藤 GSE 委員長から所要のため見送れないだろうという伝言を受けていた。田中潤治、松井 GSE 委員が見送りに来られた。田中委員があらかじめ予約されていた空港の特別室に入り、未知の世界への不安と緊張感が体を引き締める。LH741便に搭乗,定刻9時55分離陸。機内食の牛丼などを食べしばらくは日本ともお別れかと少々複雑な気持ちになる。それぞれメンバーは現地でのプレゼンテーションの最終チェックなど。午後3時45分フラン

クフルト空港に到着。日本との時差は7時間なので、ここまでの所要時間は12時間10分。フランクフルトの広い空港内の掲示板を見ながら乗り継ぎ口まで移動、LH3076便16時46分発,定刻18時にデンマーク・コペンハーゲン空港に一行は降り立った。北欧の日はまだ高く明るい。寒いと聞いていたが気持ちの良いさわやかな日だ。コペンハーゲンには出迎え4人



Osten Tordenmaln GSE委員長、Vivoca Serder 氏、Bo Hennby 氏など。コペンハーゲン空港に直接乗り入れている電車に乗ってマルメに移動。コペンハーゲンからスウェーデンのマルメまでは地下トンネルと両国を結ぶ橋の下を電車で25分である。この橋は2000年にデンマークとスウェーデンが費用を出し合って造られた。チーズ・バター・酒の安いデンマークからスウェーデンにコーヒーの安いスウェーデンからデンマークへ不法に品物が国境を越えるルートにもなっているらしい。駅には改札もなく、女性の車掌が車内で検札にきた。マルメ駅にはそれぞれのホストが出迎え、それぞれの家に向かった。

5月2日(火)晴れのち曇り雨

西野

#### TURNING TORSO

いよいよスウェーデンでの GSE としての活動が始まった。 9:00 マルメ市内を一望できる Turning Torso Build. に向かった。このビルは Santiago Calatrava と言う人の設計で、ビル全体がまるで芸術的な彫刻のように  $90^\circ$  ねじれている。体をひねった人のイメージで造られたという。地下にあるワインセラーを含めると 50 階にもなり、地上の高さは 179 mある。中は会議室や gym、サウナ、オフィス、アパートなどがあり大変



美しい。最上階からは国境を結ぶ橋や市内を一望できる筈だったが、無情の雨と霧が 視界を遮ってしまった。

#### マルメ大学

1998年に開校された新しい大学で、急速に発展し、20,000名の学生を有し、6コースの特色ある学部を有する。

• IMER • Technology and Society • Art and Communication • Teacher Education • Health and Society • Faculty of Odontology

特にIMER(国際移住民族関係)についての説明があった。この学部学生のための講座は、人権,平和と戦争,国際関係、都市研究、異文化理解、コミュニケーションの為のスウェーデン語、英語などがあるということである。

14:00~16:00 の間は、スウェーデンと日本の女性の地位や子育てなどについて Jernbeck 女史と我々メンバーが話し合った。彼女は女性として初めてロータリアンと なったとか。日本よりジェンダーについては意識が高いだろうと思っていたが、職場 等ではまだまだ男性優位ということもあるらしい。彼女は「男性は男性を選び、女性 は適任者を選ぶ」と言った。子育てについて職場や企業がどのように理解しているかは、育児休暇が一年半ほど有給である点など制度的には日本より優れていると思われた。

5月3日(水)晴 金谷



#### スナフたばこ工場見学

#### (Snuff (tobacco) manufacturing)

スウエーデン特有の煙のでない、歯茎と上唇の間に小さなテイバックのようなたばこをはさみいれる。原材料からたばこへと加工する過程を見せてもらいながら、説明を受けた。

#### Malmö Lorensborg RC 例会

はじめてのチームプレゼンテーションを行う。暖かい雰囲気で聞いていただいた。

その後市街地をチームメンバーで散策。

# スウエーデンテレビ局を見学 (The Swedish Television Company (SVT))

さまざまなスタジオや道具、衣装などをみてまわることができた。



5月4日 (木) Vocational Day

金谷

団長:マルメ大学、アジアから来た学生と Education for sustainable Development (ESD) についての授業に参加

梅辻:マルメ大学(健康福祉学部)スウエーデンにおける福祉政策学について

高齢者デイケアセンター、サービスハウジング訪問

永野: Danisco 砂糖精製工場見学、マルメ大学(化学科)各論文紹介

桂川:マルメ大学(歯学部)、大学教育システム PBL について。病院見学

金谷:マルメ大学(幼児教育学部)学生にまじってスウエーデン語で講義に参加

終了後、大学講師と幼児教育について情報交換。

5月5日(金)晴 梅辻

#### Malmo Skeppsbron RC 例会

2390 地区でも数少ない朝会のクラブの一つを訪問。昼夜忙しいロータリアン達が、朝食の時間を有効利用して、互いに情報交換を図っていた。

#### オレスンド商工会議所 訪問 (Oresund Chamber of Commerce)

「オレスンド」。デンマークと南スウェーデンの両地区を含めてこう呼ぶ。オレスンド商工会議所は、1999年に南スウェーデン商工会議所とデンマーク商工会議所の一部統合により開設され、オレスンド地区の国際競争力を高めるために様々な活動を行っている。マルメを中心とする南スウェーデン地区と、コペンハーゲンを中心とするデンマークは、2000年に両都市を結ぶオレスンド橋ができるなど、経済発展という同じ目的に向けて協力体制を築いている。しかし、異なる通貨、言葉そして経済状況等の障害もあり、統合は想像より難しいとのことだった。

#### ロータリー・ドクターズ・バンク事務所 訪問 (Rotary's Doctors Bank)

2390 地区ロータリー・ドクターズ・バンクは1988年に設立された。ここに登録している医師は、医師が不足している発展途上国(主にアフリカ)に赴き、現地の患者の健康管理や医療行為を行う。基本的な滞在期間は6週間で、医師は旅費と滞在費のみを受け取り、病気の予防、治療そして医療スタッフの教育訓練等を無償で行う。現在はスカンジナビア・ドクターズ・バンクと協力し、年間約140人の医師を派遣しているとのことだった。現地での記録VTRを拝見し、その任務の厳しさ、そして尊さを目の当たりにした。

#### 国際海洋大学 訪問 (World Maritime University)

国際海洋学に関する専門家を育てるため、必要な専門知識(海洋政策、環境、安全)を学ぶ大学として、1983年に国際海洋機構により創立された。世界的にも最高レベルの教育・訓練が受けられると大学として大変高い評価を受けており、現在140以上の国に2000人以上の卒業生を輩出している。



5月6日(土)晴 梅辻

#### デンマークの首都コペンハーゲンを散策

2000 年に完成したオレスンド橋を渡り、デンマークの首都コペンハーゲンを訪れた。 コペンハーゲンは北欧最大の都市で、歴史が古く、街は非常に活気があり、人口は郊 外を含め約150万人を数える。オレスンド橋の近隣地区では、建設中のビルが多く

見受けられ、経済成長が著しい印象であった。 (2006年度のロータリー国際大会が開催される会場も、この近辺に確認できた。) 一方で、ドラッグフリーの影響もあり、一部治安が良くないエリアも見受けられた。私達は、有名なアンデルセンの「人魚姫」の像を訪れた後、デンマーク国王の住居を含むアマリエンボー宮殿の広場にて衛兵交代式を見物し



た。また、港町情緒の楽しめる運河沿いの地域 (ニューハウン) を散策し、カラフル な建物が並ぶ美しい風景を楽しんだ。

#### 5月7日(日)晴 移動日 (マルメ→シムリスハムンへ)

5月8日(月)晴 永野

#### A guided tour at Österlen

マルメとは異なる自然豊かな町。とてつもなく広いフィールドを眺めながら長めのドライブで、中世のお城へ。ニルスの冒険という物語の舞台となった場所。海岸沿いには別荘、レンタル用のサマーハウスがあり、夏はかなりにぎわう。

ストーンモニュメントの見学。イギリスのストーンへンジのようなもので日時計、宗教儀式に使用など諸説あるとのこと。丘は年間を通して非常に風が強く厳しい環境でありながらとても美しい。その中の草原や海岸沿いを散策し、さらに代表的な魚料理、ニシンの揚げ物とブラックパンを味わった。



その後、農業高校の見学へ。牛、豚、馬がおり、農家が多い土地柄か、実践色濃い授業、実習が行われていた。大学に行く者もあるが、地元で働くものが多いとの事。日本人留学生(サツキさん)を1年預かったことのあるというコーディネーターの家でRC 例会に参加すべく、浴衣に着替えさせていただくが、かなり田舎の香りが服や靴に染み付いていた。

#### Hammenhog RC 例会



初のディナーミィーティングだが、田舎の気さくな雰囲気。新参者がいる場合は順番にワインをおごる決まり。昼間の農業学校の先生という若い女性がGパンで参加されていた。浴衣プレゼンはなかなか好評。中国と日本はどちらが米をたくさん食べるのか、などの質問がでるくらいのラフな雰囲気で問題なく終了。

5月9日(火)晴 永野

#### 魚加工工場・ミンク飼育場見学

#### (A visit to a fish industry: Bengtsson's Fish in Simrishamn)

社員が16名の会社バルト海の魚を加工、貿易している。バルト海では4ヶ月の休漁期間がある。水揚げ時に網のサイズでおおまかにサイズ分けし、機械で洗浄、骨皮を取る。サイズ別にフリーズされて出荷となる。主にサケ・ニシン・うなぎ。アラは動物の餌となる。そのままその家族で経営しているミンク飼育場へ。魚のアラは、チキンなどと混ぜてミンクの餌となる。ワシントン条約により、今年一杯で経営は終了。ブリード用と、毛皮用に分けられ、毛皮用のものは7ヶ月で皮をはがれる。輸出先は主に中国、日本。動物愛護の観点から、ヨーロッパではフォーマルな場でミンクは着ないし、店舗が攻撃されることもあったそうだ。政府はこの仕事を禁止する方向だが、ミンクはどうするのか(生態系への影響)、家族の仕事は?など残された問題は多々ある。

#### 魚料理レストラン (Buhre's fish)

5ヶ月の休業期間を含めても年間で30 万人が訪れるという人気の魚レストランへ。現在は1代目。20年前には何もなかった小さな村の港だが、この夫妻が立ち上げて25年位。去年はすし屋の日本人経営者が受賞したという、魚料理の賞を獲得した。両親がかつて漁師であり、その魚を自



分でスモークしたことから仕事が始まった。センスのいい地元の建築家に店を設計し、 かなりいい雰囲気。味も抜群だった。

#### KIVIK R.C 例会飛び入り参加

女性プレジデントのクラブで、昨日のクラブとは異なり落ち着いた雰囲気。我々のホストの所属クラブ。ホストの希望により浴衣でナイトミーティングに参加。11月にロータリーフレンドシップでオーストラリアに行かれた際の報告があった。写真を PPにして2週間の行程を説明されていた。

#### 5月10日(水)睛 Vocational Day

桂川

西野:午前-精神的・知的障害児の施設訪問

午後一郷土史博物館にてレース編みなど歴史を観る

金谷: Kivik のプリスクール、小学校の見学

永野:TH Meyaers AB 菜種油栽培農家、オイル精製工場見学

梅辻:区福祉センター(老人ホーム、高齢者ホームヘルプサービスセンター等併設)

医療ケアセンター、高齢者ホームヘルプサービス見学 (高齢者自宅訪問)

桂川:午前-Brantevikで開業している Rolf Bergstrom のクリニック見学

午後-Kivik で開業している Lars Gullstrand のクリニックにて臨床見学

#### A sailing tour in the sunset with the ship `Klara Marie`

Skillinge 港 (Simrishamn の南) のレストラン 'HAMNKROG'で魚介スープの夕食後、セイリングへ出かける。各自、ホストファミリーと参加。1884 年から使われている船でバルティック海を北上していった。風がほとんどなく穏やかな海面、帆を張ってもあまりスピード増すことなくゆっくり進んでいた。おみやげにカレンダーを頂いた。太陽が沈んで



いくまでの2時間ほどのセイリングを楽しむことが出来た。

5月11日(木) 晴 桂川

The Swedish Welfare Social System @Forsakringskassan in Simrishamn スウェーデンの社会保障制度について、特に育児休暇制度について学ぶ。

#### The Social Welfare Office in Municipality of Simrishamn

ここの Municipality の社会福祉について。自宅のバリアフリー改装費の全額負担、家族への介護に対する支払いがあることに驚く。

#### Simrishamn RC, Team's Program

出席者 15 名程のミーティングだった。会場は地元のホテルのレストランで。高齢の方が多いという印象。チェアマンが不在で団長のホストブラザーが代わりを務めていた。

### an elderly home: Skonadalshemmet Simrishamn

現在45名が入所。デーサービス、 短期滞在施設もある。個人負担は 月に部屋代4900SEK、食費3, 000SEK、雑費1,500SEK。支 払い不可能な場合は政府からの助 成がある。(我々の訪問が地元新聞 に紹介されました。)

5月12日(金)快晴

西野

朝8時30分、シビック広場に集合。 車に分乗してイスタッドに。



#### Primary Care Center

保健所か何かかと思っていたら、市民の総合的な健康管理が情報処理システムによって完備された施設のようであった。体調不良の市民は、まずこのヘルスケアーセンターに情報を入れ、この情報に基づいて専門職員(医者を含む)がその状況を把握し、緊急度、症状によって適切な処置を与えるというシステム。勿論緊急を要するときなど直接病院へ搬送するなり診断を受けたりするのは自由。ここには7名の医師と12名の看護師、心理療法士、作業療法士、社会福祉士など43名ほどの専門職員が勤務しているようだった。この国の平均年齢は男性77.1歳女性80.7歳の長寿国であり、その結果、多くの老人がこの施設を利用している。費用は健康に関する経緯費はTaxで分担され、6歳児までの個別健康チェックや育児に関するスペシャルプログラムや子供

を産まれると地域の看護士が育児指導し、その経費は無料である。マルメ・ルンドの病院は、南スウェーデンの中心的存在で、日本同様セカンドオピニオンの利用はOK、誤診等による医療裁判はまれということである。

#### Ystad の町ツアー

マリア教会の見学は中に入れず中止。イスタッド のショッピングストリートと云っても、わずか



200~300mほどの石畳の道の両側に店舗が並ぶ賑わい。ぬけるように青い空に太陽が輝き、町行く人はすでに夏の装い。

16:00 前、モニカ女史の引率で、町の1軒家に案内される。ここで次の日曜朝まで我々 GSE メンバーが一緒に過ごすフリータイムの場だ。生活感の残る家で、決してきれいと は云えないが、我々5人が過ごすには充分な広さだ。まず、夜はスウェーデン風にキャンドルに火を灯し、自分達で調達した夕食を取る。何かしら開放感の内に日誌の整

5月13日(土)快晴

西野

#### 朝食の後、打合会。

- 1. 全員の体調 OK。それぞれのファミリーとの交流など報告。
- 2. プレゼンテーションについて、反省と修正。
- 3. 報告書の作成についての話し合い。日程の分担。
- 4. その他、日本へのメール分担。お土産などの話し合い。

スウェーデンのアパートは、システムキッチン、食器洗浄器や調度品は完備されているが洗濯機はアパートの地下室にあり、共同利用のようで、ホストがアパートの者は、洗濯機が備え付けられているこの家で、洗濯しようということになった。洗濯機はドイツ製で、説明が読めない。一度私はグナーさんのところで使ったので、知っているつもりだったが、いざセットして始動させ待つこと1時間、洗濯機が止まったので、取り出そうとすると脱水が出来ていない。このボタンではないかと押して閉めたら再び最初から洗濯機が回り出した。次に止まったとき、矢張り脱水が出来ていない。全

員でああでもない、こうでもないとボタンを押したらまたまた最初から。大方1日洗濯機と格闘していたような気がする。久しぶりで昼ご飯は「龍興飯店」という処でやきそば、ワンタン、焼き飯を食べ、町を散策。マリア教会で4時からシューベルトのコンサートに出かけた。しばし、クラシックの世界に心静かに浸る。夜は、ピザとビールなども飲んで5人で楽しむ。



#### 5月14日(日)晴れ

西野

朝食ののち、町巡りに全員で出かける。我々の斜め向かいの Backagarben というホテルのみかさんという日本人に会う。彼女は、スウェーデン人の船員さんの奥さんで、鎌倉生まれで娘さんが一人、現在ロンドン滞在中、ここに 30 年住んでいるという。日本からの週刊誌などを上げたが、大して感慨深そうでなかったのはすっかりスウェーデン人になりきったのかも知れない。

11 時イスタッドの広場に集合。 3 台の車に分乗して Hedelin Kerstin さんのお宅で、エビ、ニシン、アスパラガス、ジャガイモ、野菜サラダ、ケーキ、お茶をご馳走になり、これからの職業研修などの日程説明を受けてそれぞれのホストファミリー宅に向かった。

5月15日(月)くもり

金谷

ルンド中心部のウオーキングツアー (The city of Lund)

ルンド教会、大学の校舎を見学しながら説明を受ける。その後スウェーデンの歴史と ともにルンドの話を聞く。昔デンマークと戦ったはなしや、王様がたてた教会や建物 のはなしをきいた。

#### ルンド大学にて健康心理学のおはなし (The University of Lund)

教授が日本の東京医科大学でおこなわれた学会の資料を英文でいただいた。自分たちが知っている心理学の知識などをはなしあった。



Lund-Laurentius RC Lunch meeting ルンドの博物館("Kulturen": the Swedish heritage museum)

むかしからある伝統的なスウェーデンの建築物を展示してあり、30もの建物に分かれる。昔の大学教授、農家、牧師が住んでいた家、教会を再現している。

(夕食はスウェーデンの GSE チームととも に。)

5月16日(木)晴れ

金谷

#### ルンド大学小児科病院

#### (The Department of Children's Diseases at Lund University Hospital.)

0歳から18歳までを対象とした病院。あらゆる病気に対応できるように設備とスタッフがそろっている。施設はあたらしくアートもとりいれられ、かいてきな空間とな

っている。院内学校、トレーニングプール、 調理実習室、作業療法室、体育室、食堂、衛 生室などを見学。病室は親子で過ごせ、子供 の目線にあわせたつくりになっている。

午後からはプレイセラピーの部屋を見学。 広々とした空間の中にコーナーごとにわかれ ておかれてあるおもちゃは大人も魅かれる充 実ぶりだった。1日に50人ほど訪れ、セラ



ピストは5人。保育士資格保有者が担当している。

#### 機能食品会社訪問 (CEBA) development of "Functional food".

オート麦から作られた乳製品を含まないミルク製品を開発している。豆乳に似た味で 自然の甘みがある。製品の試食をさせてもらった。

#### ルンド大学トレーニングセンター

("Gerdahallen": the training and fitness centre at Lund University)

たくさんの学生や近隣の住人が訪れるスポーツセンター。施設見学と体験。メンバー

5月17日 (水) Vocational Day

永野

団長:学校で施設見学と折り紙の授業(ホストファミリーの奥さんが勤める学校)

難聴児の学校訪問。副校長が学校案内と授業参観と昼食。

金谷:モンテッソーリプリスクール見学

桂川:ルンド大学歯科口腔外科病院にて顎関節の手術見学

梅辻、永野:区福祉センター

(老人ホーム、高齢者ホームヘルプサービスセンター等併設)

高齢者向け共同住宅(民間)

5月18日(木)雨

永野

#### Armored Tank Regiment P7

軍隊の中でも特に戦車部隊の訓練所。スウェーデンでは兵役があり、18~49歳の間に 15ヶ月ほど参加、訓練する。戦車部隊は海兵隊の次に難しい部署とのこと。1台の戦車は 15000馬力でドライバー・コマンダー・スナイパーなど 4人一組で乗り込む。勿論 GPS 搭載。我々は本物の戦車、訓練用戦車を見学し、戦車操縦のシミュレーションを体験した。

#### Rescue Services College

1986年スタート、年間におよそ 4000人の卒業生 (10~15%は女性)を出す、レスキュー、消防訓練学校。2日のコースから2年のコースまである。この分野の学術的研究と実践を以下に結びつけるかに重点を置く。本社他、4支社あり、60%は政府、40%は民間で出資されている。十分な訓練設備があり、われわれが訪れた日も雨にもかかわらず、デンマークやド



イツから消防、レスキュー隊員がともに訓練を行っていた。

#### Harlosa RC - Dinner meeting

朝訪問した軍隊の高官用の食事、ミーティング部屋にてディナーミィーティング。食事前に、RC から軍への寄付のお礼演説があった。また、柔術を習っているという日本人女性が、RC ミィーティング にゲスト参されていた。軍隊練習場にあり、シンボルとなっているダブルオーク(オークの木が2本寄り添っている)のバナー、参加証を頂いた。

5月19日(金)雨

#### ルンド大学植物園見学 (Lund Botanical Gardens)

ルンド大学植物園は、大学が創立された17世紀の終わり頃から存続する大変歴史ある植物園で、ルンド市内の中心に位置する。8~クタールの敷地において、7千種類もの

梅辻

植物を育てている。植物園内に設置されたビニールハウスは、9種類の異なる気候区域に分かれており、約2千種類もの植物を取り扱っている。ここでは、スコーネ地方の美しくまた雄大な自然を満喫することができた。

※永野 別行動、追加 Vocational Day

マルメ、カリンの計らいで化粧品会社に訪問することが出来た。

#### スコーネ動物園 見学

1952年に開園したスコーネ動物園は、スカンジナビア半島に生息する動物だけを集めた動物園としては世界最大。現在92種類の動物が約800匹生息しており、絶滅の危険にさらされている動物も含まれている。動物園といっても、檻はほとんど設置されておらず、どの動物もそれぞれ広い敷地の中で放し飼いにされていた。動物本来の習性と周囲の自然がうまく調和



された、スケールの大きな自然公園のような場所であった。

5月20日(土)雨/曇

梅辻

#### ルンド大学祭 ("Lundakarnevalen")

この週末は、4年に一度のルンド大学祭が開催された。大学祭といっても、学生達のためだけのものではなく、スコーネ地方を中心とする各地から、観光客が訪れるほど大規模なものである。学生達による出店やライブ以外にも、遊園地の呼び物のような乗り物までが設置され、大変盛大なお祭りであった。また、この日はルンド大聖堂に



てパイプオルガンのコンサート等も開催され、 地域の高齢者達も集まっており、様々な年齢層 の人々に喜ばれるイベントが行われていた。こ の祭り一番の見ものは、昼間に行われた学生達 によるパレードであり、学生達の派手な扮装が とてもユニークで、見物客も多く集まり、街中 がお祭り騒ぎになっていた。小学生による扮装 パレードも行われ、先生も一緒に扮装に参加し

たりと、町中がこの4年に一度のお祭りを大いに楽しんでいるようだった。あいにく この日の天候は悪かったが、学生達や街の人々のエネルギーで、ルンドは一日中盛り 上がっていた。

#### 5月21日(日) 晴 移動日 (ルンド→ランズクローナへ)

梅辻

ランズクローナにて、私達は新しいホストファミリーと対面した。この日の夜、Ingela Engdahl さん (ホストファミリーの一人) の家で、私達メンバー 5 名とそのホストファミリーを招いて、歓迎のホームパーティーを開催して下さった。受け入れ初日にこう

いった温かい歓迎をして頂くことで、全メンバーと全ホストが一度に打ち解けることができ、ホストファミリーの方々の心遣いを大変有難く感じた。

5月22日 (月) Vocational Day

桂川

団長:午前-市営保育園見学

午後-高等学校で昼食、施設見学、授業参観(高校2年化学)

金谷:午前-グルームローブのプリスクール、小学校見学

午後-屋外活動中心のプリスクール(5歳児)クラスに参加

永野:午前-TOXICON AB 環境分析化学主体

午後-CHEMOTECHNIQUE DIAGNOSTICS パッチテスト用資材製造販売

梅辻:認知症高齢者グループホーム (民間サービス委託型) 訪問

桂川:午前-Dr. Lars Christersson のクリニックで臨床見学

午後-Landskrona 病院歯科の見学: Dr. Viveca Kristoffersson

#### 5月23日(曇り・雨)

桂川

#### Lomma Community

Lomma は人口 19,000人で国内でも5番目に 平均収入が多い地区。あまり移民がいない ことも特徴。現在、かつての工業地帯の再 開発が進んでいる。 County と Municiparityの管轄の違いを学んだ。

#### visit to the Kindergarten

Lomma Community の幼稚園見学、気温が低

く肌寒い日だったが子供たちは全員元気に外で遊んでいた。園児80人に対し先生20人と一人当たりの担当園児は少ない。先生が常に目を光らせているという感じではなく、園児は自由に遊びたいもので遊ぶ。昼食をご馳走になった。メニューはミートボールとゆでたジャガイモ。園児は自分でお皿に取りわけ、後片付けもキッチンでお皿の汚れを流してからワゴンに戻していた。

# the Swedish University of Agricultural Science in Alnarp

ここでは800人の学生に対し300人の教師がいる。図書館には1780-1815年に作られた木製の'木の標本'が保管されており、植物に関する書籍、雑誌類も充実している。学生、教員の他に一般にも開放している。大学構内の植物園を植物学者の方が案内してくださ





った。しかしイチョウについては西野団長のほうが詳しくご存知だった。

#### Landskrona Glumslov RC meeting at Orenas Castle, Glumslov

海沿いに建てられたこのお城は昔、貴族が愛人のために建てたといわれている。ミーティングには全員ゆかたで参加。プレゼン終了後、スウェーデンと日本の違い、地震について質問を受ける。

5月24日(水)くもり時々晴れ、時々雨

西野

#### Landskrona 病院の見学

ニュージーランドに GSE として参加したという医師が各病棟の部屋数や対応とスタッフなどの説明を受けた

#### Landskrona RC の Meeting に参加

プレゼンテーション。今回で8つのRCと1つのDoctorクラブの訪問となり、私が日本から持参した色紙には地区ガバナー、GSE委員長、各ロータリークラブの会長のサインが



その足跡を示している。このアイデアは素晴らしいと自画自賛。

#### Landskrona 市庁舎の見学

市長は居なくて、32 才で3人の子持ちという若い市会議長が40,000人の人口の市の概要を話してくれた。服装はとてもラフでジーパンをはき、いつもこんなのかの質問にいつもはスーツ姿であると答えた。この後、観光旅行業者の女性が現れて、見にくいコンピュータによる画面で名所旧跡を紹介し、人口も増加傾向にあるこの地方の観光開発について話して呉れた。観光開発事業として市が50%の負担をして設立されていて、これは住む人、旅行する人、働く人の為に市も力をいれているということであった。

#### Landskrona 博物館

この建物は 250 年前、軍事目的の為建てられたが、現在は博物館として、子供達が自ら体験的にナイフや道具を作って手工も出来るという、体験型博物館である。ここにはあの有名な「ニルスの冒険」のノーベル賞作家シェルマの写真や手紙が展示してあった、

#### 「Fehco」という照明器具製造の会社訪問

Ingela さんの経営する会社。Ingela さんは若いが見るからに経営者という感じの女性である。この会社ではオートメーション、ロボットなど最先端の機器の導入とこまかな手作業の部分に分かれ、企業や学校、大がかりな施設の照明器具を作っている。塗料の吹きつけには静電気を利用して行い、塗料の飛散などによって大気汚染や人的被害から守るという配慮をしているという。

#### 射撃

夕方 6 時 Lennart 氏の家に行き、軽く日本の酒「月桂冠」で乾杯、持っていった「のしいか」はどうも不評らしかった。どうも烏賊は食べないらしい。たこは食べるのに。のち Ingela さん友人の家に行き小雨の中射撃を経験した。目をつむって撃ったのに的にあったって大感激。雨の為、室内でブタのフィレ肉と野菜でパーティ。夜中にご帰還でした。

5月25日(木)晴れ、風つよし

西野

#### Ven Island

久しぶりのリラックス、リフレッシュデー。10 時過ぎメンバー全員とインゲルさんマリーさんと一緒に Ven 島に向かって船で出発。最初は自転車ツアーだと云うことで少し気がかりだった。自転車は子供の頃から乗り回しているが、もしもひっくり返って怪我でもしたらみんなに迷惑を掛けると気がかりだった。しかし、幸か不幸か風がとてもきつく自転車ツアーは取りやめるとのこと。気温は9℃、風が強い為、体感気温はさらに低く感じる。この日は国の休日で、船には小学生、高校生、若いカップル、シニアの夫婦など団体や家族で一杯、30分ほどで Ven 島に着いた。多いと行っても日本の行楽地の休日を想像してはいけない。多くの人達は、レンタル用の黄色い自転車に乗って、三々五々島巡りを楽しんでいた。我々はバスに乗り最初の停留所で降りた。ここには山羊の牧場があって、山羊の乳で作ったチーズが売られていた。取りあ

えずは試食、でも買わず。山羊の飼育の様子などを見学ののち、雨の中を歩いて移動した。近くにある古い教会は今は博物館として利用されている。中には入らず、博物館のそばのチコ・ブラーエの天体観測の記念館で現地の若い案内人マーキン氏からチコ・ブラーエの偉大な業績を聞く。1546年12月14日チコはスウェーデンの南端(当時はデンマークの領土だったが、)の



Knustorp 城で生まれた。かれは13才でコペンハーゲンの大学で学び、気象学、天文学、地図作成学、錬金術についての優れた研究者であったが、中でも観測実証、理論における天文学に優れた学者でケプラー、コペルニクス、ニュートンなどの法則や実証の近代科学先駆者であった。彼は、1576年~1597年まで Ven 島で様々な恒星や惑星の正確な運動を手製の観測機械で観測をした。とくに火星の運動については長年観測を行い、地動説の基礎となる理論を述べた。島を去ってからこの島での観測施設などは全てなくなってしまっていたが、2005年にチコ・ブラーエ博物館として、当時の彼の学説をフィルムで再現したり、観測機械を展示したり、銅像を造って観光客に披露していた。

昼はインゲラさんの妹さんが経営する明るく美しいレストラン Backafalls Byn で昼

食。ワインとビール、エビのマリネとパン、キャビアの野菜添えの前菜にサーモンとポテト、アイスクリームとチョコレートケーキのデザート。食事の後は14才の牝馬の引く馬車に全員が乗って船着き場に。途中古い教会に立ち寄った。もうすっかり花を開いた菜の花と穂の出かけた小麦のグリーンが果てしなく広がり、所々切れた雲の間から覗く太陽は春を待ちわびた木々にふりそそぐ。途中思わぬみぞれに見舞われたりしたがハイキングに支障なし。夕刻といっても北欧の太陽はまだ高い時間に船で帰還した。

#### 5月26日(金) 曇り

金谷

予定が変更になり、シャーブリンゲンの教会を訪ねた。小高い丘の上から海や大地が 広がり、美しい景色をここでもみることができた。古い墓地もあり、地元のひとが埋 葬されている。

#### ビリングシェル老人ホームを見学。

ホーム、ショートステイ、ナーシングホームなどに分かれる。スタッフは3シフト制で約130名が勤務。ジム、プールなどの施設も充実している。日本では老人ホームといえば病院の施設と同じような設備のイメージがあるが、ここでは部屋も広く、インテリアもすてきで、快適な空間を作り出すように配慮されている。新聞は毎日CDで読んでくれる機械があり、希望者は借りて自室で聞くことができる。

#### プリスクール見学

祝日の狭間で子供たちは 6 名の出席。1 歳から 6 歳までの子供たちを 6 グループ に分けて保育。今年 4 月にオープンした ばかりの新しい保育所。開園時間は 6 時 30 分から 17 時 30 分。スタッフは 20 名。 朝食、朝のおやつ、ランチ、(こちらで はディナーと呼ぶ)、3 時のおやつを出 す。2 階建てで施設も広々としておもち ゃも充実したかいてきな空間。

(我々の訪問が地元新聞に掲載されました)



#### 5月27日(土)晴れ

金谷

各自ホームステイファミリーと過ごす。

団長:ホストとショッピング

永野:アンティークショップ、サイクリング、サウナ

梅辻:ホストとともに結婚式に参加 桂川:ホストのサマーハウスで過ごす。 5月28日(日)雨

金谷

ヘルシンボーグへ移動。次のホストファミリーへ。夕方は桂川さんのホストファミリー宅でパーテイ。5家庭があつまって過ごす。

5月29日(月)雨/晴

梅辻

#### Helsingborg Berga Forsta Frukost RC 例会 (第9回プレゼンテーション)

5週間の滞在期間中で、2回目の朝会訪問となった。25人程度のロータリアンが出席されており、朝の忙しい時間帯にも関わらず、皆興味をもって私達のプレゼンテーションを聞いて下さった。

#### ヘルシングボリ地方裁判所

スウェーデンの裁判所は、通常の裁判所と行政裁判所の2系統に分かれており、ここは通常の地方裁判所の一つである。1970年代から使用



していた旧庁舎から、昨年の6月に現在のモダンなデザインの新庁舎に移動したばかりであった。この裁判所では、40人の常勤裁判官を含め80人の職員が働いている。対応して下さった裁判官の話では、近年悪質・重大な少年犯罪が増加しており、問題となっているとのことであった。また日本で今話題の裁判員制度のような形式が、スウェーデンでも既に導入されていた。

#### Helsingborg Karnan RC 例会 (第10回プレゼンテーション)

25人程度のロータリアンが出席されていた。今朝の Helsingborg Berga Forsta Frukost RC も今回の Helsingborg Karnan RC も、プレジデントは女性の方であった。 近年の女性の社会進出に伴って、ここ 2390地区においても女性ロータリアンが増えてきているとのことであった。

#### ヘルシングボリの町散策

まず、St. Mary's というデンマーク・ゴシック風の美しい教会を訪れた。建物は1450年に建築されたものだが、20世紀になってから作られたという現代風のデザインのステンドクラスや巨大なオルガンが特徴的だった。その後、ヘルシングボリで最も有名な旧跡 Karnan 塔へ。この要塞は600年以上前からこの町を守り続けており、高さは34メートルで、壁は4.5メートルの厚さがある。らせん上の小塔を登って頂上に到達すると、ヘルシングボリの美しい町並みから目の前の海を越えてデンマークまで一望できるパノラマ風景が広がっていた。

5月30日(火)晴 梅辻

#### 地元新聞社"Helsingborgs Dagblad"

# HENCE PARTY AND THE PARTY AND

#### 訪問

Helsingborgs Dagblad は、主に北西スコーネ地方の記事を扱う、発行部数が約85,000の新聞社である。ここで最も興味深かったのは、毎週日曜日に17~18歳の青年達によって書かれる記事を掲載する欄を設けていることだ。青年達の教育の一環として行われているということで、各自興味を持つテーマについて、独自の目線から自由に記事が書かれてい

た。青年達にとって良い経験になり、また社会が青年達の声に耳を傾けることができる絶好の機会にもなるため、大変有意義な取り組みであると感じた。

#### 家具メーカー"IKEA" 訪問

スウェーデンの有名家具ブランド" I K E A"のヘルシングボリ支社を訪問した。 I K E A の販売店は世界 24 カ国に 207 箇所あり、そのうち 40 店がスウェーデンにある。世界中に市場を拡大中で、日本では今年 4 月に船橋に一号店がオープンし、 9 月に横浜(予定)、そして今後関西圏への進出も計画されている。

#### ファッションショー (ブティック)

通常のブティックの一部を利用して開催されたショーで、大変アットホームな雰囲気の中で行われた。

5月31日(水)晴 永野

#### schools in Hoganas

地区に1つ高校。594人の学生が通い、また200人の大人の通信教育もある。単位制でコア科目750p、一般教養科目と各コースのレベルアップクラス1350p、個人ワーク(卒論のようなもの)300p、プロジェクトワーク100pが必要。ここでは、幼児教育課、

テクノロジー課、電子機器課、芸術課、ビジネス・アドミニストレーション課・ホテル課・自然科学課・ヘルスケア課などがあり、希望するコースがない場合のみ越境入学可能。ここでは23歳~67歳の教師が働いており、給与は22,000Skr~27,000Skrと差がないのにショックを受けた。また、この高校の大学進学率を聞いたところ、高校の成績で大学入学が決定するにもかかわらず、把握していないとのことにまた驚



いた。

日本の高校よりもかなり早い段階で大学の学部にあたるくらいのコース選択をせまられ、その分、高校で大学の教養課程レベルの授業を受けているようだった。

ここで、YFU交換留学生の大多和さんに会った。1年弱の滞在ですっかりスウェーデン語をマスターした模様。来年千葉へ帰って高校を終えた後、スウェーデンの大学に戻りたいと希望されていた。

#### Hoganas RC meeting.

手厚い歓迎を受けた。一人ひとりに似顔絵(?)、国旗の書かれたカードをいただいた。 Caldvs

フランス本社、全世界に 2000 人の社員を持つコンクリート会社。世界各国から原料を輸入し、セメントなど 200 種類以上の製品をつくっている。もともとこの土地が広く、港に近いという貿易に良い立地条件でありつつ、良い(塩を含まない)粘土などが採れたことでこの土地で栄えた。

#### Hoganas AB and

鉄分の会社。精密機械、自動車エンジンのほか機能性食品の鉄分としても使用される。

6月1日 Vocational Day

永野

団長: Centrumskolen 小学校の見学。

2時間小学2年生に折り紙の授業を受け持つ。

金谷:モンテッソーリプリスクール Tellus Hultabo

モンテッソーリ小学校 Tellus Nova

教会運営、私立プリスクール

梅辻:市役所高齢者福祉部

リハビリテーションセンター(市営)

認知症高齢者グループホーム(市営)

桂川: Dr. Annica 歯科医院でインプラント手術見学

Pfizer 製薬(ニコチン製品担当チーム)見学、ディスカッション

永野: Unilever 工場見学

Pfizer 製薬(ニコチン製品担当チーム)見学、ディスカッション

6月2日(金)晴れ

桂川

#### Visit to Wrams Gunnarstorp Castle (with Ingmar&Ola)

個人所有のお城の見学に行った。古いところは15世紀に建てられたもの。19世紀初頭からトーナメント家が所有し現在5代目。スウェーデンの王も泊まりに来られたという。室内はそれぞれの年代を再現し家具や食器が展示してある。天井に描かれた模様がきれいだった。庭が広く、木でつくられたトンネルがある。維持が大変だと言っていた。6月のInternational Conventionでは50人くらいのロータリアンが見学に来る。

Hoganas-Kullen RC meeting (with Ingmar
& Lena Maria)

本プログラム最後のプレゼンテーションでもあり、最後の公式プログラム。(今週 4回目!)5月31日のミーティングと同じ会場のレストランで行われた。

#### Sofiero Castle

1864年に Oscar 王子が妻 Sofia のために建 てた夏のお城。様々な種類のシャクナゲが 見頃で、とてもきれいだった。



見学後、解散

6月3日(土)曇り 桂川

**6:50 - Mr. Jonsson 家集合** Ingmar と John の車 2 台で Copenhagen 空港へ向かう。 Bo Hennby さんが見送りに来て下さる。

10:25 - LH3071 コペンハーゲン~フランクフルト

13:45 - LH0740 フランクフルト〜関西国際空港

機内、バラバラの席だった為思い出語ることなく約12時間を過ごす。

6月4日(日) 桂川

#### 8:00 - 関西国際空港到着

GSE 委員長加藤さん、出迎えてくださる。

#### 4、職業研修、ホームステイ報告

#### 見たままの異文化理解

西野博子

夫婦そろっての旅行好きから海外に数多く出たが、今回のようにホームステイというのは初めての経験で、よりその国の自然や文化に深く接することが出来たように思った。 ユーモアも含めて、私の見たまま、感じたままの異文化理解を綴りたい。

1 mと 5 cmの異文化:空港についての初めての挨拶は、出迎えた人達による歓迎の言葉とハグから始まった。こんな時日本人は互いに礼をする。すなわち頭の当たらない距離1 mは互いに距離がある。最初自分からハグをするということには、抵抗があった。この距離こそ異文化に対する距離かもしれないと思った。研修も後半になると、朝、また別れるとき自然な形でハグを受け入れることができるようになった。

人の異文化: 北欧の人は大変背が高い人が多い。日本人として私は大きい方だと思うが、始めのステイ先のインゲル女史は、1 m90 cm近い身長で、一人暮らし。自分にあった家具、調度品で室内を飾り、大変整ったアパートに住んで居た。「ひろこ、何でも使ってね。」と1 室与えられ快適な気分。翌朝、シャワーのあと、洗面所の鏡を見たら鼻から下が見えない。トイレの便座に座ると足が床につかない。4番目のホストのグナさんは1 m95 cmの身長であった。朝の挨拶は身をかがめてのハグ。傍に立たれると彼の腰のあたりに目がいくように思った。また、向こうの夫婦はハグはもとより、出かけるときには互いにキス、そして食事の時は「君の作った食事は美味しいよ。ありがとう。」とほめ言葉と感謝の言葉を忘れない。ついつい、下世話な私は、夫婦喧嘩したときもキスして送り出すのだろうかとか、まずかったときどう云うのだろうかと思ってしまった。

また、ある保育園の見学のとき、年中のクラスの教室に「たこ組」「ワニ組」という表示があった。日本では「ゆり組」さんとか「さくら組」さんとか何となくやさしい名前のクラスはよく見かけるが。「お宅のぼうや何組さん?」って聞かれた母親が「今年はたこ組なのよ。」っていうのだろうか?



日本人理解と異文化:滞在中多くの学校の見学と3時間の「折り紙」の授業を担当した。 折り紙は日本の伝統文化ということは多くの人々は知っていた。3番目のホストである エバは中学校の理科の先生。当日は、自分の授業を割いて「折り紙の授業」にしたいと 云った。前日にはエバ自身のための予習をやった。順調に授業が終わったが、一人の男 の子がエバの耳元でささやいた。「あれは日本人か?」「そうよ。」「じゃ、彼女は芸者 か?」??なるほど、スウェーデンのスーパーには芸者チョコレートというのが売ら れている。芸者のような姿をして日の丸を持った商標のチョコレートである。もうひと つ、難聴児の学校でのこと、とても聡明そうな小学校4年生の児童が手話で質問してきた。「日本はどのくらいの大きさがあるの?」「スウェーデンの 1.2 倍だけれど 65%は山で平地はとても少ない。」と私。「人口は?」彼。「スウェーデンの 14 倍くらいいるよ、特に東京や大阪という都会には人が一杯いる。」と私。そうすると彼は立ちあがって両手を体にぴったりつけ「じゃあ、大阪ではいつも人々はこうやって立っているの?」しかし、日本の女性天皇の議論については関心を示し、多くの処でどうなったのかと聞かれた。今はコウノトリに任せているらしいというと、スウェーデンでも子供はコウノトリによって運ばれると云った。

3週目のホストが終わるとき、ご主人の David は車の中で「ひろこ、日本の良い伝統は受け継いで行かねばならない。」とまれに見る真剣な顔で云った。

**男女の異文化**:日本は長年男尊女卑の国だと思っていたが、近年はジェンダーフリーと か男女共同参画社会とか云って、女性の地位も向上してきた。スウェーデンでも女性の 地位が向上してきたのは近年らしい。まだ、社会のトップにいる女性の比率は男性に比べて少ないらしい。

家に対する異文化:人口密度が小さい国だからか、住む人の家はおおむね大きい。農家の家で幅7m長さ37~38m位あるという。勿論平屋ではなく2階と地下室もあるのが普通だ。そして歴史有る古い家ほど値段が高いらしい。デンマーク風の古い家を観て「あの家は素晴らしい。」とかあれは18世紀に建てられた家で内装を変えて住んでいるとさかんに羨ましがっていた。いくつもある部屋には大きなテーブルとシャンデリアがあり、室内は絵画や骨董品で飾り、自分達の家族の写真はどこの家でも飾っている。5番目のホストのトステンさんの家は農家だ。かれは朝早くトラクターに乗って出かける。

「うちは100~クタールの農家で、それは大きい方ではないが小さい方でもない。」と云っていた。この地方の領主の家では、国宝級の家屋や調度品、850~クタールの農地と2,000~クタールの森林を持っているそうな。わずか5cmほどの境界をめぐってお隣と紛糾する日本の都会など彼等には想像だに出来ないだろう。



**食の異文化**:この国では食事の時にキャンドルを灯す。キャンドルの燭台があらゆる処に置いてあって、夕刻には火がともる。二酸化炭素の削減という事からどうなか?と思ったが、彼等は電灯を指さし、この電気を作る為にどれだけの化石燃料を使用するか考えてごらんと逆襲してきた。高緯度に住む人間の特性なのか、彼等は太陽を好む。太陽高度が高くなるこの時期に、食事も休息も太陽を浴びながら楽しむ。マルメの海沿いで時間待ちをするとき、炭酸入りの水を貰って太陽の照りつけるベンチで過ごしたときは

日傘が恋しかった。

よく外国の食事はまずくて、日本食が食べたいなどという輩がいるが、私はまずいのではなくて食の文化の違いで口に合わないだけだと云ってきた。全くその通り。でもニシンの薫製焼きとか鱈、鮭は美味しかった。何故か主食のジャガイモはとても美味しく、滞在中は日本でもジャガイモを主食にしようなどと思った。どうしたって?ただ、思っただけ!

**酒の異文化**: スウェーデン人はワインをよく飲む。各家の地下室にワインセラーを持つ 家庭も多くあった。また、スナップスという焼酎に似た強いお酒があって、小さなワイ

ングラスについでちびちび飲む姿もよく見かけた。 日本には酒の文化はあるがワインの文化はないと 私は思っている。酒に対する細かい配慮がされる ほど酒の文化度は高いと思っている。日本では「酒 はぬるめの澗がいい。」などというが、ワインに対 しては「赤、白、ロゼ」くらいしか云わない。「何 処産のいつ作られたどんなワイン」などと指定す るのは僅かの日本人だと思う。私?ビールもワイ ンもスナップスも(I drink like a fish.)



社会生活での異文化:スウェーデンの男女は、恋人が出来ると同棲する。これを SAMBO というらしい。そのまま、同棲を続けて子供が出来ても日本ように「非嫡の子」とはな らない。姓は男女どちらの姓を継いでもよく、それによって差別されることなく社会保 険や様々な保障は平等に受けられる。これは移住民に対しても同じで差別を受けること なくその子供の学校教育や保険制度、福祉などある年限居住すれば保障される。では、 婚姻して離婚はどうかというと未成年の子がある場合は半年間の熟慮期間を置いてか ら離婚できる。そして離婚した翌日でも男女とも再婚できるそうな。日本では受胎可能 期間ということもあって、女性は離婚後すぐには再婚できない。私がステイした家族の ことから考えても、離婚率は高いらしい。日本の最近の若者によく見られる「できちゃ った婚」の熟成版かも知れない。長い間の同棲期間を経てなぜ「結婚式」をする男女が 多いのだろう?この疑問は解けずに帰国した。離婚に伴っての子供の親権はどうなって いるのか。日本では、別れた夫婦が子供の親権を自分にと主張し、片方が親権を取った 場合、養育費を払わないなら面接交渉には応じないなどというトラブルが多いが、この 国のある人の子供は1週間おきに父と母の間を行き来し、「今週は彼が子供を引き取っ てるの、だから私は映画を見たり、自由があるの。」などとさばさばし、「どうして日本 で面接交渉が大きな問題になるか分からない。」と云った。また、遺産分割では、夫が 亡くなって妻と子2人の場合、妻は6分の4,子供は各々6分の1づつとなるようだ。 社会保障や福祉が充実していると云うことは、どこかでその資本を調達せねばならな

い。それが高い税金である。これについては他の団員が詳しく書くと思うので割愛する

が、国家努力無くして国家の安泰はない。ところで、私達の滞在期間中、小泉首相がスウェーデンを訪問していたが、現地の人に「何故 KOIZUMUMI はスウェーデンに来たの?」と何度も質問を受けた。「何で来たの?」私も聞きたい。

**そして自然**: なだらかな平地が続くスコーナ地方、何処に立っても思わず「地球が丸いことが判った。」と何度云ったか! 四季のある日本特有と思った櫻(八重桜)の花が咲き乱れ、新緑の牧草や小麦、豆が芽吹き、木の葉が新緑に輝き、黄色の菜の花畑が果てしなく続く中を野ウサギや子鹿が跳び回り、雉がつがいでゆっくり歩む。ナイチンゲ



ールが鳴き、林の木漏れ日の下にはタンポポや色とりどりの可憐な花が咲いている。海は紺青に、オスロや近郊の港に向かう舟影も一枚の絵を見るようだ。そして限りなく続く青空に白い飛行雲がコペンハーゲン空港に向かう。この自然を、この国の自然を、あのマルメの学生達が真剣に話し合った環境保全の心の輪を拡げ、次代さらに次々代の子供達に残して欲しいと願うばかりである。

#### 職業研修

事前に現地に報告した書面に、もと高等学校の化学の教師であったこと、副校長であったこと、現在家庭裁判所の調停員をしていることとスウェーデン王国が環境教育に力を入れていることやすぐれた福祉国家であることに興味があり学びたいと記載したため、多くの研修施設が教育機関であった。

私は、かつて教職にあったときは、タイ、中国、イタリア、ルクセンブルグ、アメリカなどで教育視察を行い、また理科実験の交流会などをもったが、今となっては今回の研修で得た経験を活かすことが出来ないのは大変残念であった。しかし、RI2390 地区のロータリンの誠意有る対応によって大学、高等学校、中学校、小学校、知的障害児の学

校、聴覚障害児の学校、移住民と高齢者の語学の学校の見学と交流会に参加することが出来た。現地の教育制度は日本と大きな差はなく、普通教育や幅広い個性を生かす教育など工夫されている事が判った。ただ、日本では教育にかかる費用はかなりの高額になるが、スウェーデンでは無料であり、また放課後の塾などというものは目にとまらなかった。

ESD (Education for Sustainable Development)



マルメ大学でインド、中国、韓国、カンボジア、モルジブとスウェーデンの学生8名

の ESD という講座に参加した。この日は、学生がルンドやマルメの近郊の小学校、中学校で環境教育に関する実習を行い、その結果を持ち寄りディスカッションするという授業だった。

ある小学校では、1時間(60分ではない。)の授業を5分は英語の授業、5分は音楽の授業残りを空き缶の分別をするゲームをしたと報告。また有る学校ではエコクラブ (緑のクラブ)というクラブがあって環境保護に取り組んでいる、12 才以下の児童を 週1回集めて環境についてのディスカッションをさせている学校や2つの場面の異なる写真を見せてどちらが良いかをディベートさせる学校もあるようだった。さらに自分達で野菜を有機栽培させ、それを給食に用いる学校やグリーンフラッグを貰った学校などの報告があった。しかし、反面グリーンフラッグを貰うまでは熱心に環境教育に取り組むが貰ったあとは、何もしない教師や関心のある教師と全く関心のない教師がいるとか、貰ったプレゼントの包装紙をバリバリ破って捨てる子供が居たなどと問題点を指摘する学生もいた。日本の都会では自然が無くビオトープなどと称して自然学習させているが、本当の自然とは何か。また資源の少ない日本は資源とエネルギーについて子供の頃から環境教育に取り組む必要をさらに強く感じた。

#### 知的障害児の学校見学

いつどこの国の知的障害児の学校を訪問しても、彼等の純粋さには感動する。人を疑うことを知らない。そしてここで働く先生の、奉仕の精神はまさにロータリーの奉仕の理想に近いものを感じる。重度身体障害をもつ児童をハンモックのような台にの世吊り上げて排便の世話をする先生、児童を抱っこしたまま移動する先生など。帰り際に3~4人の児童が先生に連れられて「質問していいですか?」と近寄ってきた。「いいよ」というと名前は?とかどこから来たの?などと聞いてきた。私が応えたあと、先生が一人の子に「名前を聞いたのだから、あなたも名前を云いなさい」、と云われると、その子は恥ずかしそうに「でも僕はスウェーデン語で名前は云えるけど英語では云えない」と云ったそうだ。何とも可愛らしい。

#### 聴覚障害児の学校見学

ルンドにある聴覚障害児の学校では、副校長先生が笑顔で校門の外まで出迎えて下さり、学校に入るとテレビ画面に大きく私の名前が映し出され、「Welcome」と書かれていた。

難聴児の学校はルンド地区に2校あり、この学校には40人の教職員がいる。案内して下さった先生は2週間前奈良県の聴覚障害児の学校訪問をしてきたと何枚かの写真を見せて下さった。子供達は、小学生から中学生ぐらいまでいるようで明るく一生懸命勉強していた。彼等のコミュニケーション手段は主に手話。日本やイタリアなどでも聴覚障害児の学校訪問をしたが、せめて「こんにちは」や「元気?」や人間共通の感情等を表す手話は、万国共通としたら、どんなに聴覚障害者が世界の人々と情報の共有が出

来るだろうかと思っている。

#### 折り紙の授業

ルンドにある中学校とヘルシンボリの 小さな村の小学校で折り紙の授業を要請 された。ヘルシンボリの小学校は、塀で囲 まれた博物館の中にあり、博物館の入場は 有料であるらしい。入り口を守衛さんらし き人が開けてくれて、小さな小学校に案内 された。名前を呼ばれた先生はコーヒーカ ップを片手にクラッカーのようなパンを



ほおばりながら「あらあら」という顔で現れた。折り紙の授業の依頼は突然だったので、事前に、持参した折り紙はすでに全て使ってしまったので、白い四角い紙を用意して欲しいと依頼しておいた。先生は、多量の折り紙を取り出し、「学校にあった。誰がいつ買ったものか知らない。」と言った。上級生はキャンプに行ったとかで、管理職も不在のような学校には4人の女性の先生が居て、如何にものんびりと子供達を遊ばして、自分達もなにかおしゃべりをしていた。私が新任教諭の時、赴任した学校では校長と教頭が出張などで不在の時「今日は日蝕、月食や。」と言って教師が羽を伸ばしていたのを想い出した。ルンドでは中学生という年齢差はあったものの持参した折り紙の本を取り合い、自分達で工夫して次々と鳥や魚、篭などを折りあげていた。しかし、この小学生達はとても可愛いものの自主的に何かしようと云う意欲が見られない。先生も授業は「あなたに任せたよ。」と云わんばかりに給食の準備に席を立った。たちまち、折り方



が判らないと 12,3 人の生徒全員が行列を作った。一人ずつ折り方を教えていくがスウェーデン語が判らないので、うまく説明できず私が折ってしまうことになる。ついに、2時間目には手の指が引きつって動かなくなる始末。でも、児童は実に純粋で可愛い。織り上げた作品に日本の字で私にサインをして欲しいと云った。迎えに来た親御さんの何人かは私の授業に参加して懸命に折り紙をしていた。

#### 高等学校の見学

ルンドにあるギムナスティム(高校)では、理科コースの化学の授業を見学した。化 学の若い先生は、「今日は実験はしません。」と云いながら化学の教室と準備室を見せて くれた。今まで見学した高校や大学の実験室全てでドラフトが各実験台につき、設備は整っている。また、壁に貼った周期表は、文字だけでなく利用されている物質や物体の写真が記載されている。このような排気ガス設備は私の在職中日本の高校では、実験室に1つぐらいしか設置されていなかった。高校2年で化学を初めて学ぶと云って、白板には中和滴定用のビュレットの絵が描いてあった。授業は、生徒たった6人で実験に伴った演習問題をしていた。先週実験したという食酢(ビネガー)のモル濃度の計算をしていた。生徒は途中で中和と塩の水溶液の液性、さらには加水分解と平衡を混同し、理解に苦しんでいた。先生は、授業を早めに切り上げ、赤面しながら「僕も判り易く説明できない。」と云っていた。日本の高校生も変わらない。

この学校でも、どの部屋にもコンピュータが置かれ、その前で多くの学生がキーボードに向かっていた。実験のもつ教育的役割、コンピュータの限界、人間教育に必要な教育方法。手段など大きな課題がまだまだあるように思った。

#### 語学学校

移住民が増加し、スウェーデンに定住する外国人が増加している。この対策の一つとして語学教育がある。ルンドにあるこの学校ではレバノン、モンテネグロ、ドイツ、イラク、アフガニスタン、ザンビア、アフガニスタン、パキスタンなどの人達がレベルに応じた語学教育を受けていた。その時代、時代で戦火を逃れ、また貧困からの脱却を願って福祉国家のスウェーデンへと移住したのだろうか。それぞれにはそれぞれの歴史があるにちがいないと思った。この学校では、簡単な単語を学ぶ生徒や一つのテーマを中心にディベートする生徒など、みんな明るくて私達に手をあげてくる。また、この学校には少年期に学校教育を充分受けなかったスウェーデン人対象の授業も有るようだった。

#### はじめに

出発前、人格、能力ともにすぐれたチームメンバーたちにはたして自分がついていけるのかという気持ちと、多大な負担を承知の上で快く送り出してくれた職場の同僚になんとか報いたいとの思いで、プレッシャーを感じながら、関空を後にしました。

しかし、マルメに到着してからは、せっかくのチャンスをたのしみながら自分のものにしようと気持ちをきりかえることができました。それは、ホームステイ先の暖かいホスピタリティであったり、チームワークのすばらしさのおかげでした。

はじめのプレゼンテーションでは少々緊張気味の私に、「ここにいるのはみんなきみの友達だ。なにも心配することはない。もし、まちがったとしてもそれは可愛いさだ。」といってくれた Bo Hennby 氏。彼の一言が、すべてのロータリークラブでの私たちをうけいれてくださった雰囲気を表現するような言葉でした。

つたないながらも回を重ねるごとに少しずつ工夫を凝らしたりして、プレゼンを進めていくことができました。もちろんチームの協力によるところが多かったです。

#### プログラムについて

どの日程も私たちのために時間と労力をさいて用意したくださったことが感じられる 内容のものばかりでした。一日に入る情報量が多く、しかも英語ということもあり、は じめは脳がうまく機能していないような感覚でしたが、しだいになれていくことができ ました。チームのなかではそれぞれの得意分野が違うことが功を奏して、訳を教えあっ たり、知識を分けてもらえたりすることが、とても楽しかったのです。

ホームステイ先ではプログラムがハードで大丈夫かと気遣っていただきましたが、 いたって健康に過ごせていました。

わたしは職業柄、病院、学校、市役所、プリスクールに行かせてもらえたプログラムがわかりやすく、興味深かったです。

#### ホームステイについて

私は、6軒のお宅に宿泊させていただきました。どの家庭でもすばらしいコミュニケーションをもつことができとてもしあわせです。

マルメ

3歳のMiakela ちゃんの家族とすごしました。ママのKarinはGSE参加経験があり、本当に、きめ細かい心づかいをしてくれました。彼女との交流は忘れられないものとなりました。実際の子供の生活そのものを体験でき、最高の職業研修でした。

#### シヴィック

Bitte と Set は、リンゴ園に囲まれた家に生活を楽しみながら暮らしている知的で、 愛情いっぱいの二人でした。私は、彼らからすばらしいパートナーシップを学びました。 美しい景色をたくさん案内してくれたこと本当にうれしかったです。

#### ルンド

ここでは二軒のお宅にホームステイしました。一軒目の Bo さんには 18 歳の Sara と 12 歳の Alicia の二人の娘さんと社会のこと、日本の文化のことなどを語りあったり しました。

二軒目は Annika と Mark そして三人の子供たちの家族でした。なかでも3番目の Clara は4歳で、毎朝私を起こしにきてくれたり、遊びにさそってくれたりしました。 24 時間保育所や自宅を開放して子供を預かっているところへ実際につれていってくれたり、乗馬の体験もさせてもらいました。

#### ランドスクローナ

はじめに黄色のバラの花束を差し出して、迎えてくれた Ingela は、スウエーデンに着いて以来、会社を経営して成功した有名な女性だということをきいていたので、会うまではいったいどんな人なのだろうかとずっと想像していました。

会ったとたんに親しげに笑顔を向け、 メンバーの名前もだれよりも早く覚え て会話の端々に名前で呼びかける彼女 の姿にさすが成功者だな。と感じるも のがありました。

私はいっぺんに彼女が大好きになり、 本音で語り合える友を得ました。

また彼女は二児の母でもあり、彼女 の困難に正面から向き合ってきたかと がみてとれる場面に居合わすことがで き、多くを学びました。



#### メラ

海と緑に囲まれた美しい町メラで、私がこのプログラムでつかみたかったことを完了させるかのごとく、最高の家族に滞在することができました。

教育メソッドのひとつであるモンテッソーリについて、子供の本について、歯科衛生について、そしてライフワークであるクラッシクバレエについて。これらをすべて満たしてくれた Lena-Maria と Carl には 18 歳の Magnus と、16 歳の Lina

の子供がいて、二人はモンテッソーリの学校の卒業生で、自分の意思を尊重されて育ってきていることがみてわかるすばらしいテイーンエイジャーでした。

Carl は歯科医で、開業している医院にもつれていってくれ、いろんな話をして教えてくれました。また、近くには Lena-Maria の父 Hans が住んでいらして、食事もごちそうしてくれたのですが、彼は優れた児童文学作家であり、いくつかの本は日本語でも翻訳されていたのです。冒頭の文章を読んだだけで、感動してしまい、彼の作品に出会えたことをとても幸運に思います。

そして私の大切なLena-Maria! 彼女は14歳までバレエダンサーをめざし、腰を痛めたために断念。そして数年前まではバレエ評論家として記事を書いていたのです。 日本から持参したDVDと写真をもとに、最も大切なアドバイスをもらいました。

彼女とともに話し合ったことすべてが私にとって必要なメッセージだったのです。 愛情をいっぱい受けて、スウエーデンをあとにすることになりました。

#### 職業研修について

週一回の Vocational day のほかに、ホームステイ先からプリスクールや託児所のような施設に連れていってもらえたことでより多くの情報がえられました。本当に感謝しています。私はもともとモンテッソーリを本などで個人的に学んでいましたが、スウエーデンにきてから、ぜひもっと学びたいという思いをより一層確信しました。実際にモンテッソーリの学校におとづれる機会を受け、大変感動しています。わずかな時間でしたが、子供たちの可愛さに自分の原点を見出すことができました。

スウエーデンでは、1歳から5歳児までがプリスクールと呼ばれ、幼稚園と保育所の 区別はない。多くは公立で、私立であっても補助金がでて運営されている。保育料は保 護者の収入に応じてきめられるところは日本と同じ。

保育は異年齢のグループ保育中心で保育士の配置基準は園により異なるが、日本に比べると、ゆとりがある。保育室は食事のスペース、プレイルーム、水遊びの部屋、木工の部屋、午睡のスペースなど、生活の場面ごとに分かれていることが多い。

戸外活動が中心の保育をしている園もあるが、そうでなくとも午睡は外のテラスなどでするところが多い。食事やおやつも天気がよければ外で行われる。



保護者とは話す機会を多く持ち、個人懇談も行っている。 スウエーデンではインド、韓国、中国などから養子をもらうケースもよくある。 そんな親子にもなんどか出会うことがあった。

朝は6:30ごろから夕方6:30ごろまでの保育時間が主で、朝食、果物、昼食、おやつを提供する。メニューはサンドイッチなど。シンプルで、調理室は一般家庭と同じような空間。調理員は用務も兼任していることが多かった。そうでないところは食事を外部から搬入している。

保育の様子、おしらせなど、デジカメやパソコンを活用しての掲示物がわかりやすかった。

日本と違って保育室にピアノがないところがほとんどだった。おもちゃはどの園も充実していて棚に見やすく整理されている。日本にも輸入されているおもちゃも多いが、種類が豊富。イス、テーブルなどを含む設備も日本では高価なものも、そろえられていた。

全体的にゆったりと関わりながら保育されているようにかんじた。

いくつかのプリスクールに行かせていただき、感じたことは、保育者のひとりひとりの 人格が園の雰囲気を作っているということ。私自身も人間的に磨いていく大切さを実感 している。

#### おわりに

研修を受けたときもさまざまなきずきがありましたが、帰国後職場復帰してからも、さらに多くのきずきを得ています。ここには書ききれませんが、日々保育の中で実践していきます。自分が受けてきた研修内容を人に語ることも大切ですが、それ以上に自分が体現して仕事のなかでみせていく姿勢も重要と肝に銘じて、気持ちも新たに毎日楽しく仕事をつづけていきたいとおもいます。

私に大いなる機会を与えてくださったすべてのロータリーのみなさまに感謝しております。

#### 1. はじめに

応募前に、これまでのGSEプログラムのサイトを拝見しました。これまでの派遣チーム 交換双方のレポートも掲載されており、プログラムの趣旨が明確に記載され分かりやすく 構成されていました。さらには数回にわたるチームミィーティングや、アルムニ会の協力 も得て、事前に十分理解した気でいたのですが、やはり実際に体験するということは素晴 らしいことだと、再認識、実感しました。大げさではなく、これまでと考え方、感じ方が 異なっている自分を感じます。

推薦してくださいました大阪西 R.C、GSE 委員会、インターナショナルロータリー、そして GSE メンバーに、筆舌に尽くせぬ感謝の気持ちでいっぱいです。

#### 2. 初めての北欧

2390 地区とは、スウェーデン最南端の地区でスコーナ地方と呼ばれる。住民自らも言うとおり、一般のスウェーデンのイメージとは異なる。いわゆる針葉樹林、Hilly というイメージではなく、比較的フラットな牧草、菜の花のフィールドと美しい海がある地区だった。今年のデンマーク・スウェーデン共同開催のインターナショナルコンベンションの舞台となったスウェーデン第 3 の都市、また北欧一の都市コペンハーゲンとも橋で渡っているマルメという都市からスタートし、かわいらしいリンゴの木とサマーハウスが並ぶ自然豊かな町シムレスハム(シビック)、歴史的な教会、大学の都市ルンド、都会の間に位置する住みやすい町ランズクローナ、対岸にコペンハーゲンが見え、遊覧船もでているヘルシングボリ。「住めるならどこにする?」といった内容の会話をしたが、私たちの誰も即答できないくらい、どこもそれぞれの環境を十分に堪能した暮らしぶりだった。

#### 3. プレゼンテーション

- ① 団長 日本、RI2660 地区の紹介、大阪イブニング RC の活動紹介
- ② 梅辻 市役所・大阪の紹介(歴史、地形)
- ③ 永野 会社紹介・日本の高齢化人口、大阪の産業
- ④ 金谷 幼稚園紹介・日本の食事
- ⑤ 桂川 日本の医療保険制度・日本住宅事情

終了後、出た質問としては、女性の働く環境、高齢化社会への対策、学生の奨学金について、大阪とロンドンどちらの規模が大きいかなどなど。

どこもほぼ 30 分区切り。質疑応答、バナー交換を含めても 35~45 分程度であった。途中、メンバーで指摘しあい、追加も行った。特に浴衣を着る要請があった際には、浴衣、着物の説明スライドを追加した。

#### 4. 職業研修

私は日本コルマー株式会社で化粧品の研究開発職に就いて丸 5 年になる。日本コルマーとは、CMS(Cosmetic Manufacturing Service)という事業展開をしている化粧品受託製造専門メーカー。国内外含め様々な化粧品の処方作成が私の主としている業務内容である。各人、希望を事前に提出し、それを元にプログラムを個人用に組んでいただけることになっている。化粧品製造、販売、製造請負、化粧品原料会社などの訪問を希望した。が、公務員と異なり、企業は製品の製造過程、または会社のシステムさえも秘密で訪問を断るところが多い現実がある。プライベート企業の、特に技術者の職業研修先を探すのは大変な苦労があったようだ。それでも各地区のコーディネーターは私が化学を専攻していたというバックグランドも含め、興味深い訪問先を見つけてくださった。逆に受け入れてくれた会社は、会社の透明性をアピールしていた。

#### 化粧品産業

産業として規模はあまり大きくなく、そのほとんどはヨーロッパ国内、主にドイツ・フランスからの輸入品。店舗形態としては、世界的に有名なブランド(LANCOME、REVRON、BIOTERM、MAXFACTOR、KANEBO など)が数件入った総合ショップが大きな都市にあった他、日焼け止め製品や、スキンケア製品、歯磨き粉などは一部薬局に入っており、その他ブランド毎に美容室のようなイメージで小さな店舗(MAKE UP STORE、STOCKHOLM、SHISEIDO など)が数件見られた。ここでは、アメリカ・カナダ・日本からの輸入品を日本で言う美容部員のような店員がメイク指導をしながら販売する。メイクの指導はメイク品購入時の大きなきっかけとなる。町まで出ない場合は、スキンケア製品の購入はスーパーマーケットですませる(ほとんどがニベア製品)

#### 化粧品使用状況

老若男女問わず、スキンケアのニーズは高い。とても乾燥しているのでかなりしっとりとした使用感の製品を多く見かけた。いわゆるローション(化粧水)は日本で馴染み深い透明液体ではなく乳化された乳液のようなものが多かった。保湿以前に気になったのが必要以上に皮脂を落とさない、もしくは成分を皮膚に残すくらいの洗浄剤。なかには香料がふんだんに使われた香水代わりのボディソープもあった。汚れ落ちはその分抑えられるが、もともとシャワー文化なので気にならなかった。また、頻繁にシャワーを浴びていた。

メイクアップ製品については基本的にうす化粧。日焼け止め、もしくはティント乳液に 口紅、の女性が多く、せいぜいうすめのシャドウにマスカラの使用。ただし、鮮やかな口 紅・ネイル製品を使用している女性は所々で出会った。もともと目鼻立ちがくっきりとし た顔立ちなので、日本のように複数アイテムの使用は見られなかった。シミやそばかす、 しわが多少目立とうとも、日本人のように作りこんだベースメイクはほとんどみられなか った。

ヘアケアについては若者で染毛剤の使用が目立った。どうみても素敵なブロンドを漆黒 に染める若者もいた。 リフティングやリンクルケアを含むアンチエイジングは興味があるところではあれ、1歳でも若く見えるということよりは、生活を楽しむことを重視しているとの事だった。

# 化粧品関連訪問会社

• ISADORA http://www.isadora.com/

INVIMA AB (AB は Co., Ltd の意) のブランド名が ISADORA。

スウェーデン本社の会社としては国内最大、またスウェーデン国内では最大のシェアをもつ。スウェーデンの化粧品店では、必ずこのブランドを眼にした。マルメのコーディネーター、金谷さんのホストであったカリンが尽力してくださり、訪問することが出来た。

<会社概要>スウェーデン最大の会社。従業員数 300 人ヨーロッパ内に工場を持ち、世界 40 カ国以上に輸出(アジア未進出)。洗浄、頭髪用、スキンケア、メイク含め、化粧品全般 を取り扱う。会社には企画部と、品質管理部がある。下記の通り多くのプロジェクトを手がけ、また大変厳しい品質チェックを行っているとのこと。

<コンセプト>無香料、高品質。

<プロジェクト>毎年ユニークな 9 コレクションを展開(春・夏・真夏・ブロンド・秋・ハロウィン・冬・トランスカラーフォーカス・ホリディ)を 8 週間ごとにプロモートしていくというように、新製品投入、広告が盛ん。雑誌でも大きく広告を載せているのをみた。かなりタイトなプロデューススケジュールである。カラーコーディネーターや、メイクアップアーティスト、女優、モデルと契約し、プロジェクト展開している。

# その他工場訪問

# ● DANISCO(砂糖精製工場)

デンマーク、コペンハーゲン本社の砂糖工場。40 カ国以上、一万人の従業員がいる。おもに飲料、スイーツ、パン、ジャムなどの糖分やフレーバーを製造する。私自身 OEM 企業に勤めるので、「大きな声では言えないけれど、うちの製品があんなに有名なあの製品に使用されているんだよ!」という彼らの誇りを共感できた。ほぼ工場、品質管理で Safety・Health・Environment・Quality を掲げている。一日に 800t のてんさいから各種糖を精製しているという規模。

● Unilever (マーガリン、クリーム、チーズの大量生産工場) イングランドーデンマーク本社の会社。他国で処方組みされた ものをここで大量生産する。原料は世界各国から輸入している。 工場の GMP や、社員教育に力を入れているとの事。上層階から は工場全体を見渡せる廊下があった。

見覚えのある乳化装置でクリームを製造する。計量、製造、充 填まで全くオートマティックなので、何トンというかなり大き

な製造釜にも関わらず、製造担当者には女性もいた。工場はここに限らずほとんど全てが全自動だった。工場の機械はイタリア製、ドイツ製がほとんど。

TPAM

TOPO

エリーバーが、日本プラントメンテナ ンス協会(JIPM)から送られた賞

# • TH Meyaers AB (www.rapsodine.se)

菜種栽培農家、オイル精製工場



初め農家に伺うと聞いて、一体何をするのだろう と不思議に思った。この農家では広大な畑で菜の 花を、栽培している。同時に工場も持ち、主にス

ーパーマーケッ トに並ぶ食用の オイル、業務用 オイルを製造、 充填している。



栽培だけにとどまらず工場で製造までも手がけるという事実に驚いたのだが、さらに工場も実によく出来

ており、オイルを絞る種子の他はレース用の馬の飼料に転用したり、自家発電(ランボルギーニ製!)の燃料につかわれているなど、収穫した菜の花から全く無駄が出ないように工夫されている。ごみの廃棄には多額の費用がかかるとの事。さらには一部化粧品原料となり、化粧品製造会社に依頼し、自然派ブランドの化粧品を販売していた。

訪問したその日も新たに導入した充填機の設置をしており、蓄えを設備投資に回す、という事業規模のコントロールも実施。日本で言う農家、というよりも会社経営者といったイメージだった。



# 研究施設訪問

● マルメ大学(化学科)phD 論文紹介

私の修士論文と同じ分野の研究者が一人いて助かった。マスター・ドクターの研究 専門範囲はかなりせまく深くなるので内容の理解は難しかった。日本で言う教授の ような指導教官にテーマが与えられているのではなく、本当に自発的にテーマを決 めて研究していた。何人かは、個人で会社と共同研究していた。

- TOXICON AB (環境分析化学主体) 化粧品の安全性試験、また国や自治体からの依頼で海岸、海水の環境を分析
- CHEMOTECHNIQUE DIAGNOSTICS(パッチテスト用資材製造販売)
- Pfizer 製薬(ニコチン製品担当チーム) スウェーデンでは 1 年前から法律でレストラン内禁煙が決定されたとのこと。世界 各国のニコチンガムのほとんどはここで製造されるとの事

# 福祉関連施設訪問

#### ● 区福祉センター

老人ホーム、高齢者ホームヘルプサービスセンター、さらには保育所、ベビースイミング教室までもが併設されている。老人、子供、子供の親、職員など様々な年代層が交流しやすくなっている。

高齢者向け共同住宅(民間) からくりは梅辻さんの報告書内に記載あり。

# 5. 一般研修

一般研修ではチーム単位で行動し、スウェーデンのシステムを学んだ。行動は旅程表に記載があるため、詳細は割愛し、特に印象に残ったシステムと全体の感想について簡単に報告する。

# ● 印象に残ったシステム

(5月12日日記参照) 高齢化社会になって久しいスウェーデンの病院事情。病院のほとんどは勿論公立。すぐに病院にいくのではなく、まずは illness-health information センターに電話する。そこで、電話でのアドバイスや、自己ケアですむものについては終了。それ以外は救急センターもしくは primary care unit に訪問。ここでさらに高度な治療が必要な時は大きな病院へ。初めは、たらいまわしにされるイメージがあったが、本当に必要な人が必要な治療を受けるのにいいシステムではないかと思う。高齢化のみならず、働く人にも便利なシステム。ただし対応する医療関係者には、どんな病状にも的確に判断できる情報量と経験が必要。

また様々に施設を併設する市役所、区役所。お役所を身近に感じた。

# ● 社会全体

税金が高い、福祉施設の充実、というイメージはまさにその通りで、国民は勿論のこと、想像以上に多かった移民も、その恩恵を受けている。(デンマークとの橋が渡っているマルメでは住民の 1/3が移民。)日本人からみて本当に羨ましいのは、人口に見合った十分な土地があり、素敵なガーデニングを施したお庭や、計画的に育てられた色とりどりの花が咲く公園、芝生があり、またきちんと利用されていること。天気の良い日は、公園で遠足のようにランチボックスを広げて楽しむ高齢者や大人のグループをよく見かけた。学校も会社も道路もとても広く、オフィスは大抵、一人一人専用のオフィスルームがある。広く Equality を実施しており、競争がキツクないゆとりが人々の生活には、いい方向に出ていた。生き方、仕事、町、国に誇りとプライドを持っているので良い意味のゆとりが生まれるのであろう。女性の社会進出率も大変高く、基本的に家事は女性が担当していたが、男性の家事労働もなかなかのものだ。手伝おうとしたり、自分の物は自分で洗濯したり、またお互いに感謝の言葉は欠かさない。出生率も現在は上昇中とのこと。

# 6. 終わりに

どんなに計画を練っても個人旅行ではこの短期間にこのような素晴らしい体験はできないでしょう。大切なコミュニケーション手段である英語が不十分で、十分な議論が出来なかったことが心残りですが、ホストファミリーが本当に家族のように接してくれて、理解不足だった点のフォローや、社会の現実、個人的な見解などを教えてくれました。また、彼らが興味深く質問してくれることで、私たちの国、私たち自身の共通点や相違点の話も弾みました。ホテルではなくホームステイさせていただけるのは、最重要ポイントであると考えます。

スウェーデンで生活させていただき、日本のことを、日本の良さを知ったような気がしています。もう少し具体的に自国を誇れるように、学んでいきたいと思います。

知識が豊富で明るく楽しい団長の下、素敵なメンバーと楽しく過ごせました。改めて、皆様に、お礼申し上げます。ありがとうございました。

# Group Study Exchange 報告書

桂川直子

今回、約5週間の研修を通じて、大学教育、大学病院、個人病院、公立病院それぞれ の場所で貴重な情報を得、経験をすることができた。また、職業研修を通してだけでは なく、ホストファミリーと過ごす時間からもスウェーデンの文化、習慣、家族のあり方 を見ることができた。

# 【スウェーデンの歯科大学教育】

スウェーデンで歯科医師になるには歯学部で5年間の教育を受ける。5年間の歯学部 教育で、日本のシステムとの一番の大きな違いは、すでに2nd semester から患者を 担当するということ。マルメ大学では Problem Based Learning (PBL) という独自の学 習システムを行っている。1グループ8人の学生と指導者1人。まず、患者の問題点を 見つける。なぜ、そうなったかという原因を探る。そして、どのような処置が必要か、 なぜ必要かを各自図書館や、インターネットで調べる。何日後かに再度グループで集ま る。そこで、ディスカッションをする。そこからまた指導者によって、次の課題が提示 される。次の週に再度集合-各分野の専門家(病理学、放射線学、生理学、細菌学など)

が集まり、その患者について何が問題なのか、 どのような治療が必要なのかということをデ ィスカッションしていく, という流れ。低学 年の時から実際に患者に接することで、治療 だけではなく人として接することの大切さを 学ぶことができると思う。また、実際にどの ような治療に対して、どのような材料や機材 が使われるかを実際に見ることで、基礎の分 野(理工、化学、物理、生化学、薬理学など)も理解しやすい。



#### 【大学病院】

ルンド大学の歯科口腔外科の見学をさせてもらった。口腔外科専門のため、一般の開 業医から紹介されてくる患者が多い。 スケジュールは、 時間的に余裕のあるとりかたが されている。そのため、スタッフが忙しく動き回るという風景は目にしなかった。しか し、そこで治療を受けようと思うと半年くらいの待ち時間が必要とのこと、患者の不満 が見られる。

マルメ大学病院では、学生が治療をする事に対して、不安がったり嫌がる患者はいな いのかと思っていたが、やはりそういう患者はいた。重度歯周病のため抜歯の予定だっ

た人が、炎症がひどいため麻酔があまり効かないのを不安に思って、途中中断していたところを見かけた。大学病院が教育機関であることの理解は、何処の国でも大切である。 【プライベートの歯科医院】

2, 4, 5週目と、プライベートの歯科医院の見学をさせてもらった。

① Dr. Rolf's clinic : Brantevikは人口数百人の小さな町、そこで一件だけの歯医者。待合室で待っているとそこに現れたのは、サングラスに長髪、カラフルなジャケットを着た背の高い方で、ドクターと言われなかったらロックミュージシャンかと思うような感じ。でも、本格的にそこではじめたのはここ 4年くらい。現在も、マルメのほうに大きなクリニックを構えている。日本のように、目立つような看板はないが、どのように患者を獲得しているのかという問いに対して、マルメのほうのクリニックは、外からもわかるように大きい画面のプラズマテレビでどのような治療ができるかを見せている。看板も大きく設置してある。現在は、ホームページからアクセスできるのでそこを見て、来る人もいる。近くに、アートギャラリーを持っていて、地域の人や患者さんに、Dr. Rolf とはどんな人か、どのようなビューをもっているかを知らせる場所として展開させていきたい。患者さんには、怖いなぁとか、行きたくないな、話しにくいなぁという気持ちできてもらいたくないから、患者との信頼関係を築くきっかけになるとよいと考えているらしい。

患者とのコミュニケーションは、初診時には良く話を聞く。どうして欲しいのか、な ぜそうなったのかの情報を得ることが大切。

スタッフみんなで共有しているスローガンは'Let the first impression make



different!'

ある意味、彼の風貌からは想像できないような、患者へ の心遣いや、治療実績だった。

患者に対する気持ちは、万国共通。笑顔で帰ってもらいたいということ。

②Dr. Anica 's clinic: スウェーデンでも女性外科医として草分け的な存在のDrらしい。ドバイやスペインでも患者を持つ。結婚はしていないがエチオピア人の女の子を養子にし、仕事に家庭にと常に忙しそうだった。ここスウェーデンでは、仕事と家庭を両立している女性が実に多い。そんな母親の姿を見て育つ子もまた、

仕事を持ち家庭も持つようになる。いいサイクルが廻っているように思える。

③Dr. Lars's clinic (写真): 患者さんが手にしているのは緊張して力が入ったときに握るための犬のぬいぐるみ。この写真は治療が終わった後に撮ったもの。リラックスして、いい笑顔。治療中、緊張気味の彼女の耳元でやさしく子守唄を歌いながら麻酔をしていたのが印象的だった。恐怖心を与えないDr. Larsの人柄と確かなテクニ

ックが患者に信頼され、この笑顔に結びついている。

# 【公立病院の歯科】

ランドスクローナ公立病院にある歯科を見学させてもらった。ここでは、定期的に健診に来る患者が多い。年2回は衛生士、年1回は歯科医師の検診を受けるのが一般的だという。労働組合の力が強いらしく、こちらでも労働者の権利が最大限行使されている感じを受けた。スウェーデンでは、衛生士が行える業務の幅が広い。部分麻酔の使用、レントゲン撮影が出来ることが日本とは大きな差である。特に定期検診業務を任せることが出来るため、衛生士自身の仕事に対するモチベーションもアップし、歯科医師としても同じチームとしてスムーズに治療を行うことが出来る。これには、十分な教育が必要であるし就職してからの勉強も必要となる。しかし、日本のようにまだ助手のような仕事が多い環境とは違い、一人ひとりやりがいを持っている。日本もこのような環境に変えていく必要があると感じた。

# 【スウェーデンの家族】

滞在中、7件のホストファミリーにお世話になった。それぞれ、違った職業を持ち違った家族構成の家。どの家族も、ロータリークラブのメンバーであることを誇りに思い、ロータリーを通じての活動にとても理解があった。

7件中、3件の父親が夕食を作っていた。彼らはそれをとても楽しんでいる様子。小さい子供のいる家族では日曜の朝食のパンケーキは、誰よりも早く父親が起きて作ると

決まっていた。このような男性の家庭内での手助けが、女性の仕事と家庭の両立を支えている。 二人で仕事と家庭をうまく支えていると言ったほうが良いかもしれない。

今後、日本の少子化、労働力不足、ジェンダー問題を解決していくなかでやはり、スウェーデンのこのような家庭を目指していくのはよいことだと思われた。

# 【私の好きな習慣】

スウェーデンでの生活で、日本に帰っても続けたいと思ったのが '新聞を読みながらの朝食'。決して食べている最中に読むのではなくて、朝 しっかりと朝食を食べてコーヒーを飲みながら新聞を読む時間を作ることで一日の良いスタートを切ることが出来るような気がする。

また、朝が早い分、10 時と 3 時に 'Fika' というコーヒーブレイクの時間もある。 これは、どの職場にもあるようで、10 分から 20 分の休憩と何か食べたり飲んだりする ことでその後の仕事も集中してできるというもの。またその休憩中に軽く世間話をした り仕事の進み具合の確認をしたりする。こうしてスタッフとのコミュニケーションを図 ることも出来る、いい時間。

最後になりましたが、今回このような素晴らしい機会を与えてくださったロータリーインターナショナル、2660地区、2390地区、スポンサークラブの高槻西ロータリークラブ、GSE委員会に改めて感謝いたします。アルムニ会の皆さんのアドバイスも参考になりました。ありがとうございました。

西野団長、金谷さん、永野さん、梅辻さん、また会う時は 'ヘイヘイ 'と 'ヘイドー 'でね。

# GSEプログラムを終えて 〜遠くて近い国、スウェーデン〜

梅辻 真希

# はじめに

私達5名のGSEメンバーがロータリー2390地区、南スウェーデン・スコーネ地方を訪れた5月という時期は、スウェーデンにおいて一斉に緑が芽吹き、花が咲き、春が来る季節でした。特に今年は冬が長く、この地方でも珍しいほど雪が降り、4月末頃まで厳しい寒さが続いていたということなので、私達は正に最高のタイミングで訪れることができたようで、2390地区のロータリアンの方々と共に、まるで春までが私達を歓迎しているかのようでした。5週間の滞在期間中も、日に日に景色が春から夏へと変わっていき、日々黄色く色付いていく絨毯のような菜の花畑は、特に印象深く美しい風景でした。驚いたことに、最初の滞在都市マルメでは、日本と同じような桜の木が見ることができました。「スウェーデンにも、日本と同じように美しい四季があり、春には桜も咲くのか・・・。」これが、私が初めてスウェーデンの街に降り立った時の印象でした。

今回のGSEに参加するまで、私にとってスウェーデンはとても遠い国であり、日本との共通点など見当もつかないほどでした。ですが、5週間の滞在中に多くのスウェーデン人と話し、考え方に触れ、共感を覚えることで、私の中で抱いていた二国間の距離は、日に日に縮まっていったのです。

#### 職業研修

私は現在大阪市健康福祉局に勤務し、高齢者福祉に関する施策を担当する部署で、主に老人福祉施設の整備や運営の業務に携わっています。職業研修では、スウェーデンにおける高齢者福祉行政、特に高齢者の住環境の調査をテーマとして、大学の社会福祉学部や市役所において、スウェーデンの地方自治制度や高齢者福祉施策について話を聞くとともに、様々なタイプの高齢者共同住宅等を訪問しました。

#### 1. 地方自治体の役割

スウェーデンは地方自治が進んだ国であり、福祉や保健医療の分野についても、国の役割は政策の基本的枠組みの決定など限定的なものにとどまり、地方自治体の果たす役割が非常に大きいといえます。地方自治体の種類としては、日本の市町村に相当する基礎的自治体である約290のコミューンと、都道府県に相当する広域自治体である約20のランスティングがあります。私達が訪れたマルメ、シムリスハムン、ルンド、ランズクローナ、ヘルシングボリは、コミューンに相当します。スウェーデンにおける地方自治体の独立性は非常に高くて権限も大きく、またコミューンとランスティングの役割分担も明確であるため、スウェーデンの地方自治制度は、中央集権的な日本の制度とは似て非なるものといえます。コミューンは、住民に最も身近な自治体として、

高齢者・障害者サービス、保育サービス、初等・中等教育、住宅等のインフラ整備などの広範な業務を担当しています。一方ランスティングは、広域的な観点から、保健 医療サービス等を担っています。

# 2. 高齢者福祉行政

スウェーデンは要介護高齢者の在宅生活率が高いことで知られていますが、それを可能としている政策的基盤としては、主に以下に述べる(1)計画的な住宅政策によって整備された質の高い住環境と、(2)充実した在宅福祉サービスの二つを挙げることができます。

# (1) 高齢者の住環境

# • 基準の高い一般住居

スウェーデンには、高齢者ばかりか国民一般に対する住宅政策が早い時代から社会保障制度の基礎として位置づけられ、良質な住宅供給を行ってきた歴史的経過があり、現在では国民一般の住宅基準が欧州一とも言われています。高齢者や障害者への配慮という面でも、自治体が住宅政策や都市計画において中心的な役割を担っており、高度にバリアフリー化された総合的な街づくりを計画的に進めてきました。決して地理的条件として恵まれているとはいえないスウェーデンにおいて、このように質の高い住環境・生活環境を整備することは、安定した福祉施策を展開する基盤作りとして欠かせなかったといえます。

公有建物の管理については、その用途に関わらず、市の住宅公社が一括して実施する手法が一般的とのことでした。実際に、マルメで私のホストファミリーが暮らしていた市営住宅は、市の住宅公社によって管理されており、職業研修にて訪問したシニア向け住宅の建物管理についても同公社が担っていました。こういう面からも、一般住宅と高齢者住宅の両方の施策が断絶されることなく、総合的に進められているように感じました。要するに、スウェーデンの質の高い高齢者住居整備は、一般的な住宅施策の延長上にあるものであり、特別に高齢者の住宅施策だけに力を入れてきた訳ではないです。

#### 「高齢者施設」がない?!

スウェーデンにおける高齢者施設の状況を述べるにあたり、まず大前提として日本と大きく異なっている点があります。それは、スウェーデンでは「施設解体」と呼ばれる政策がとられ、「施設」という名称は既に廃止されているという点です。この政策は、「施設」という言葉には、特別な状況の人だけが入所する、または閉じ込めておくといったマイナスのイメージが伴うため、そういった名称を使用することをやめ、「住居」として取り扱うべきである、というノーマライゼーションの発想からきています。勿論、従来の「施設」に相当する老人ホームは今も存在しますが、それらは法的には「介護つき住居」と呼ばれています。そしてこれが重要なのですが、嘗て「施設」と呼ばれた「介護つき住居」は、一種の「住居」として位置づけられ、一般高齢

者住宅の基準に合わせた改造等によって大幅に居住環境が向上し、名実ともに「住居」 と呼ぶにふさわしい環境に近づいているのです。名称を変更する、ということから始 めた意識改革が、真に必要な施策の実現を後押した例といえると思います。

# ・介護つき住居

こうして、現在法律上「介護つき住居」と呼ばれるものは、入居者の介護度等に応じ、サービスハウス、老人ホーム、認知症グループホームなどに分類されています。「介護つき共同住宅」の条件としては、主に市の福祉事務所が入居の決定を行うことにあります。私は、マルメ、シムリスハムン、ランズクローナの各都市にてこれらの共同住宅を訪問しました。これらの住居は、おおよそ地域から孤立しないように町の中心部に建てられており、託児所やプール等の他施設と併設されるとともに、内部のレストランやデイセンターを地域に開放することにより、「高齢者センター」のような役割を果たしていました。どの共同住宅についても、家庭的な環境の下、少人数で行うユニットケアが導入されており、入居者が使い慣れた家具を持ち込むという原則となっていました。また入居料金としては、家賃、食費、介護費が別々に徴収されますが、必要な費用を支払った後の最低保障額が決まっており、個人の負担すべき料金がそれを超えてしまう場合は、市から補助が出る仕組みとなっていました。

# ・シニア住宅

既述の「介護つき住居」に分類されない、主に55歳以上の健常者が入居するシニア住宅というものがあります。この場合、市は入居の決定に関与しません。私がマルメで訪問したシニア住宅では、入居者だけでなく地域の方も気軽に利用できるカフェが運営されており、大変明るい雰囲気で、人が集まり易い工夫がなされていました。カフェに集まっていた入居者の方々に話を聞くと、最近このカフェを社交の場として、入居者以外も参加できる料理サークルやスポーツサークルができたようで、人と積極的に出会う生活を皆大いに楽しんでいるとのことでした。

# ・新型?シニア住宅

従来から、シニア住宅の一種として、コレクティブハウス(様々な範疇の人が、個々のアパートを持ちながら、1つの建物内に共有の持ち場をもち、共同の食事運営(入居者が当番で調理を行い、全員でともに食事をする)を行う形態の住居)というもの

があります。ルンドで訪問したシニア住宅は珍しいタイプで、コレクティブハウスに似ているものの、共同の食事運営だけでなく、共有スペースの掃除、インテリアコーディネート、新しい入居者の決定から予算管理まで、全て入居者(40歳~85歳)が行っており、職員が一人も居ない点で、新しいタイプのシニア住宅といえるものでした。高齢化が進む中で、高齢者が



シニア住宅入居者の方々と(ルンド市内)

お互いに助け合い自活することを目指した実験的な試みとも言えるものであり、入居者の方は「ここは第 2 の人生を楽しむ場所だよ。」と話していました。入居者の選定にあたっては、将来高齢化が進み、入居者が一斉に介護が必要になってしまう事態を回避するため、入居者が一定の年代に集中することがないように考慮しているとのことでした。

# 住居運営の民間委託状況

ランズクローナで訪問した認知症高齢者グループホームは、建物の管理は市が、運営は民間会社が行っていました。こういった民間委託は、これまで公的に運営されてきた福祉部門に民間セクターを導入することにより、利用者に選択の可能性を増やし、民間に競合させて効率的な運営を図ることを目的としており、1990年代以降、特に共同住宅の運営部門について導入されています。市はケアの質や料金を条件とした入札によって委託先を決定しますが、その職場で働いていた市職員はそのまま残り、委託先会社の職員に身分を変えて働き続けるケースが多いとのことでした。こういった業務委託の方法は、委託先を原則入札等で決定する点で日本の指定管理者制度に似ていますが、市の職員が会社員に身分を移してまで勤務し続ける点が異なっており、この場合はケアの質に根本的な差は発生しないため、民間委託の主目的が、運営の質の改善よりも、経費削減に設定されているように感じました。

# (2) 在宅サービス

在宅サービスとしては、地方自治体の責任により、ホームヘルプサービス、ナイトパトロール、訪問看護、緊急呼び出し電話、移送サービス、デイケアセンター、ショートステイ、住宅改造補助、高齢者住宅補助、家族ヘルパー等の制度が設けられていました。大部分は日本の介護保険サービスと似た制度ですが、家族ヘルパー制度はスウェーデン独特の考え方といえます。これは、家族が在宅で高齢者を介護している場合、

市が当該家族をヘルパーとして雇用して給与を支払う制度、または市から当該家族に対して介護手当を支給する制度です。この制度は、市が高齢者介護について最終的責任を負う原則を維持しながら、家族による介護という選択肢を提示しているといえますが、家族介護を基本としてきた私達日本人の感覚からすると、自分達の家族を介護して自治体からその経費が支払われるという発想は、相当驚くべきものでした。



自治体所属の看護士による訪問看護サービス

職業研修を通して、スウェーデンの高齢者が、介護が必要になっても住み慣れた住居で生活を続けている姿を目の当たりにすることができました。大阪市における要介

護高齢者の住環境についても、「施設」から「在宅」へ計画的に基盤を移す必要がありますが、大阪市の高齢者向け住居は、供給量の面でも、バリアフリー等の質の面でも十分とは言えません。高齢者が住み慣れた環境で生活し続けることができるように、大阪市も福祉政策の第一歩は安心して暮らすことのできる居住環境の確保と維持であるという原点に戻り、高齢者施策部門と一般住宅施策部門が共同し、総合的な街づくりを進めるべきだと思います。

# 私なりのスウェーデン観

この研修を通して、スウェーデンという国のシステムを学び、人々の考え方に触れた中で、私が最も感心し共感したことは、様々な状況において、相反する二つの要素が存在した時に、どちらか一方に偏るのではなく、うまく中庸を保つことができるという絶妙のバランス感覚を持ち合わせているということです。

例えば、建築物についていうと、古い建物の外観は残したまま、内部だけを現代風に改装して、使用しているケースが多くありました。こういった場合、昔からの町並みを残しつつ、一歩建物の中に入ると、新しい備品が備えられており、便利で過ごしやすい構造になっていました。つまり、伝統が大変重んじられる一方で、積極的に新しい文化や文明が、伝統を損なわないような方法でうまく取り入れられているのです。またライフスタイルについていうと、例会で出会ったロータリアンや訪問施設で働く方々は、ビジネスにおいてはパートナーと大変誠実に接し、時間も厳格に守り、謹厳実直な仕事振りといった印象でした。その一方で、スウェーデンでは労働組合の力が強いせいもあり、労働時間自体は短く、余暇を十分に取得し、日本人のように(?)

極端に自己犠牲を払ってまで仕事をすることはありません。男性も女性も、仕事と家

庭の両者をうまく組み合わせて、メリハリよく生活しているように感じました。

国のシステムに関する話で、社会保障の充実をとるか、或いは経済発展をとるかという極端な議論がたまにありますが、スウェーデンにおいては、高福祉高負担の充実した社会保障制度が有名な一方、一流メーカーのボルボや、私達が訪れたIKEA等の優良企業が多く存在しています。このことがずっと不思議だったのですが、この理由について私は、まず手厚い社会福祉政策がそれまでの低所得者層を中間所得層に押し上げて、福祉への依存者を減らしつつ、国民皆が自活できるような基盤作りに力をいれた後、国のシステムとして経済発展を妨げない社会保障制度を浸透させた状態をうまく保ち続けている、これを可能にしているのが、スウェーデン人の絶妙のバランス感覚というものではないかと考えます。スウェーデンは、他の欧州諸国と異なり、帝国主義時代から第一次・第二次世界大戦中も含め、これまで約190年間も非同盟・中立主義を貫いてきた歴史がありますが、中立の立場を貫く姿勢やバランス感覚といったものは、こういった歴史的背景も関係するのだろうと感じました。

# 二つの国民性の共通点 ~スウェーデンと日本~

私が出会ったスウェーデン人は、聞き上手で、どちらかというと控え目で、口論よりも意見の一致、話の和を求める方が多く、非常に話し易かったといえます。スウェーデンの高負担高福祉の制度は、国民が共有する互助の精神から生まれたものであり、皆で協力して一つになり、国をよくしていこうという共同体意識によって支えられています。おそらくスウェーデンの人々は、長い冬、長い夜という厳しい自然条件の中で、できるだけ豊かに生活を送るために、お互い助け合うという合理的な考え方を培ってきたのでしょう。日本でも古来より「和を持って尊しと為す」という中立中庸の精神が美しいとされてきたので、心理的な面において、私はスウェーデン人に共感を覚えたのだと思います。そして何故か私には、マルメで見た日本を思い起こさせるあの桜の花が、私がスウェーデン人に対して抱いた共感の象徴のように思えるのです。

# 日本・再発見

例会等で出会ったロータリアンの方々に、日本人に対して抱いているイメージについて何度か尋ねてみました。すると、風邪をひいた時他人にうつさないようマスクをする習慣や、電車の中で居眠りしている人のポケットから落ちかけている財布をそっと直してあげる人を見たといった経験を挙げ、親切で思いやりがある国民であるというイメージを持っている方が多いことが分かりました。私達日本人にすれば当然の習慣や考え方でも、そこに日本人独特の美徳があるのかもしれないと思い、日本を再発見できた気がしました。

一般研修では、普段の仕事や生活では直接関わらない分野についても、具体的な説明を受け、施設を見学する機会が多かったため、そもそも日本ではどういったシステムになっているのだろうと、日本を見つめ直し、再認識する良い機会となりました。帰国後も新聞やニュースを見ていて、これまでは余り興味を持てずに自分の前を通り過ぎていた情報についても、これはスウェーデンではどんなシステムになっているのだろう、とぼんやりと考えている自分に気がつきました。これは、今までただ私の前を通り過ぎていた情報が、私にとって現実性を帯びてきているということであり、これが視野が広がるということなのかと実感しています。

# 心の家族、ホストファミリー

滞在期間中、私は5つの家庭にお世話になりましたが、年金生活のご夫婦、共働きのご夫婦、男手一人で子供を育てているお父さん等、皆それぞれ異なるライフスタイルや考え方をもっていました。ホストファミリーは、私達をお客様としてではなく、家族として迎え入れて下さり、それぞれの人生経験を通じ、先生のように多くのことを教えてくれました。施設見学からだけでは掴み切れない、本当のスウェーデンの姿について、良い点だけではなく、問題点についてもきちんと話をしてくれました。こ

うしてその国で実際に生活している人に話を聞くことで、国の表面的な部分だけでな く、多少なりともその内部に触れることができたように思います。

これは、ホテル暮らしの研修では絶対に体験できないことであり、ホームステイは GSEプログラムを構成する最も重要な要素の一つだと実感しました。

# 終わりに

最後になりましたが、今回この一生の財産とも言える機会を与えて下さった、ロータリー2660地区及び2390地区GSE関係者の皆様、推薦して下さった大阪北ロータリークラブ、そして全てのロータリアンの方々に心より感謝いたします。

そしてGSE団員の皆さん、普段全く違う背景を背負って生活している私達は、研修中持てる知識を出し合い、助け合う、家族のようでしたね。どれだけ多くの事を、西野団長を始め団員の皆さんから学んだことでしょう。このメンバーの一員として、今回のGSEに参加できたことを、とても幸せに、また誇りに思います。

この経験を様々な面で活かすとともに、今後GSEに参加される派遣団員の方々に、 私達の経験をお伝えすることにより、少しでも力になっていきたいと思います。 本当にありがとうございました。

### 5. 終わりに・・・

日本でいえばまだ早春の冷たい風が吹くデンマークのコペンハーゲン空港に 2006 年 5 月 1 日(日)私達 GSE メンバー 5 人は降り立った。この日を迎えるまでの数ヶ月が私の脳裏を瞬間走る。団長としての依頼を受けたとき、まず語学力がないこと、ホームステイという初体験の中で 5 週間という長い食生活や異文化に馴染めるかということ、愛猫を残していく淋しさ、何より団長としての任務が無事遂行できるかという不安からお断りする理由が大きく胸を占めていた。しかし、過去に文部科学省からの研修で、約 1 ヶ月海外に出た経験、海外旅行好き、語学は何とかなるさという生来の呑気さが「やってみるか。」という気にさせた。

空港にはオスティン GSE 委員長始めホストの出迎えを受け、また雲ひとつない晴天があたかも私たちを包み込むように不安を払拭し、これから続く 5 週間という研修の前途を予言するかのようであった。そして 5 週間という日は菜の花の緑色の小さな蕾を黄色いじゅうたんを敷き詰めるまでに成長させ、小さな木の芽が大きな新緑の木陰をつくるまでの長い時間でもあり、スウェーデンの人々やホストファミリーのロータリアン家族との交流を終わるにはあまりにも短い時間のようでもあった。

現地の子供に親しまれ、スウェーデン語も意欲的に取り込む進取精神に富む金谷美加さん、大人しいけれど内面にしっかりした考えを持つ梅辻真希さん、流暢な英語と気配りのこまやかな桂川直子さん、活発で表現力豊かな永野里実さん、この素晴らしいそしてバランスの取れた4人のメンバーに支えられ、一人も病気することもなく無事研修を終えられたことを日本の RI2660 地区神崎茂ガバナーはじめ GSE 委員長、各委員にご報告すると共に深く感謝の意を表したい。

RI2390 地区、スコーネ地方の 12 のロータリークラブと 1 つのドクタークラブの訪問をし、その都度温かい歓迎を受け、プレゼンテーションに聞き入り、時には私達の浴衣姿に好奇心を示され素晴らしいとお褒めの言葉を戴くなど、感動の連続であった。まさにロータリーは世界を結び、世界を一つにすると思った。

この報告書の紙面では到底綴ることの出来ない貴重な体験をさせて頂いたことに感謝し締めくくりとさせていただきます。

2005~2006 年度 RI2660 地区 GSE スウェーデン王国派遣団 団長 西野博子 (大阪イブニング RC)